





信玄全集末書上巻之三 城下

- 一 着到やうう事
- 二 志くもわう十二ヶ条事
- 三 城よりいへる事
- 四 矢倉林取可取心持事
- 五 矢さゆ切わう三ヶ條事
- 六 鉄炮矢る二ヶ条事
- 七 二重使るる事
- 八 大竹つり事
- 九 米袋捨二ヶ条事

信玄全集末書上巻之三

十 矢倉忘二ヶ条の事

十一 屏とわく魚と松子の事 自撰矢の番

十二 陸陽和合りるの事

十三 本城二三の郭陸陽の事

十四 城陸陽の事

十五 後醍醐天皇可取の事

十六 山城とわく魚と松子の事 山右衛門

山の事 舟水子わく魚と松子の事 舟水子わく魚と松子の事  
とわく魚と松子の事

十七 屋敷城梅へき尾法又ヶ条の事

十八 古居お三の事

十九 城廣さの事

二十 古居の古積りの事

廿一 郭るお古居お三の事

廿二 城内くわりの事

廿三 城お三の事

廿四 大角るお三の事

廿五 平城よとくく虎口被れ曲入の事

廿六 ちりちりの事

信玄全集末書上巻之三

城取巻下

○<sup>チヤウタクヤクラ</sup>着到櫓ノ事

一 <sup>夫レ</sup>若ら櫓といふは右よもたまりとぞ見え  
人故とれ一ととせ大お湯かん分あつて  
くく紙のりあり

えもそまらりといふは右よ一の門二門  
乃湯よまきくといふ也城申も若ら櫓といふ  
一の門の右よもまきくといふも若ら櫓といふ  
多の別らまきくといふは右の虎口一もあつ  
け湯のくくは城よ右も限又門の脇一也城と  
築めくまきくといふは

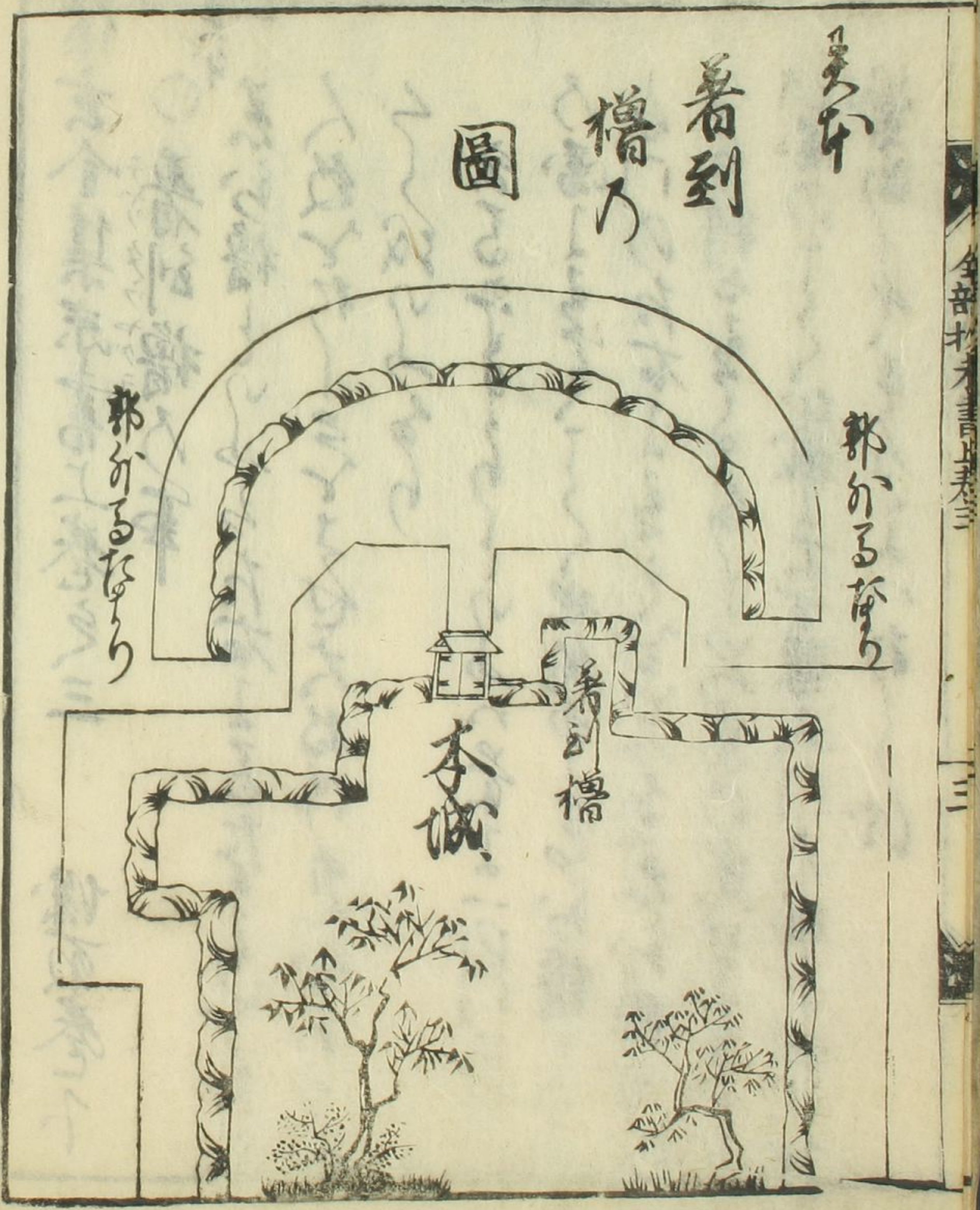
信玄全集末書上巻之三  
城取巻下  
○着到櫓ノ事  
一若ら櫓といふは右よもたまりとぞ見え  
人故とれ一ととせ大お湯かん分あつて  
くく紙のりあり  
えもそまらりといふは右よ一の門二門  
乃湯よまきくといふ也城申も若ら櫓といふ  
一の門の右よもまきくといふも若ら櫓といふ  
多の別らまきくといふは右の虎口一もあつ  
け湯のくくは城よ右も限又門の脇一也城と  
築めくまきくといふは

美作

着到

槽

圖



- 二 志とらむ切さう十二ヶ条りも
- 一 志とらむの矢倉付り 二ヶの或ハ三ヶのあり
- 二 虎口志とらむ
- 三 志とらむの古居
- 四 志とらむの屏
- 五 ひろ場志とらむの石
- 六 志とらむのうへ
- 七 志とらむのな
- 八 志とらむの魚井
- 九 志とらむのうへ
- 十 志とらむの古井

土切さう一のくろさ  
土りさうろ屋き

○三城よりさうろさ物さうりのも

一右さう外材ま石捨去路のまらさ一切不  
可さ城りいさひのさ

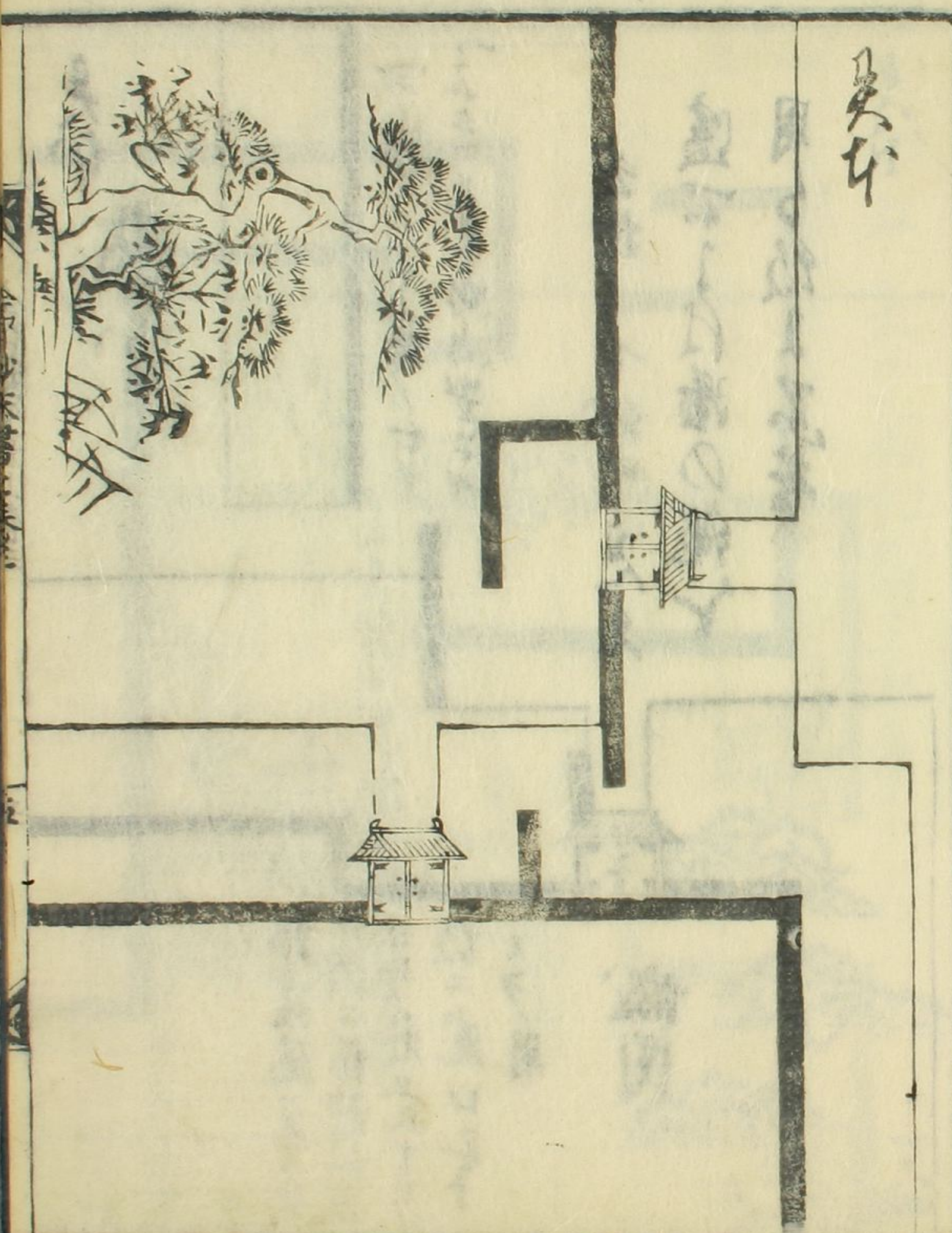
二が城二の郭さりのふさ居場りなりて小柱  
さうりまの事

○四矢倉味形可取心持り

一八方七方六方入方四方三方二方面れり

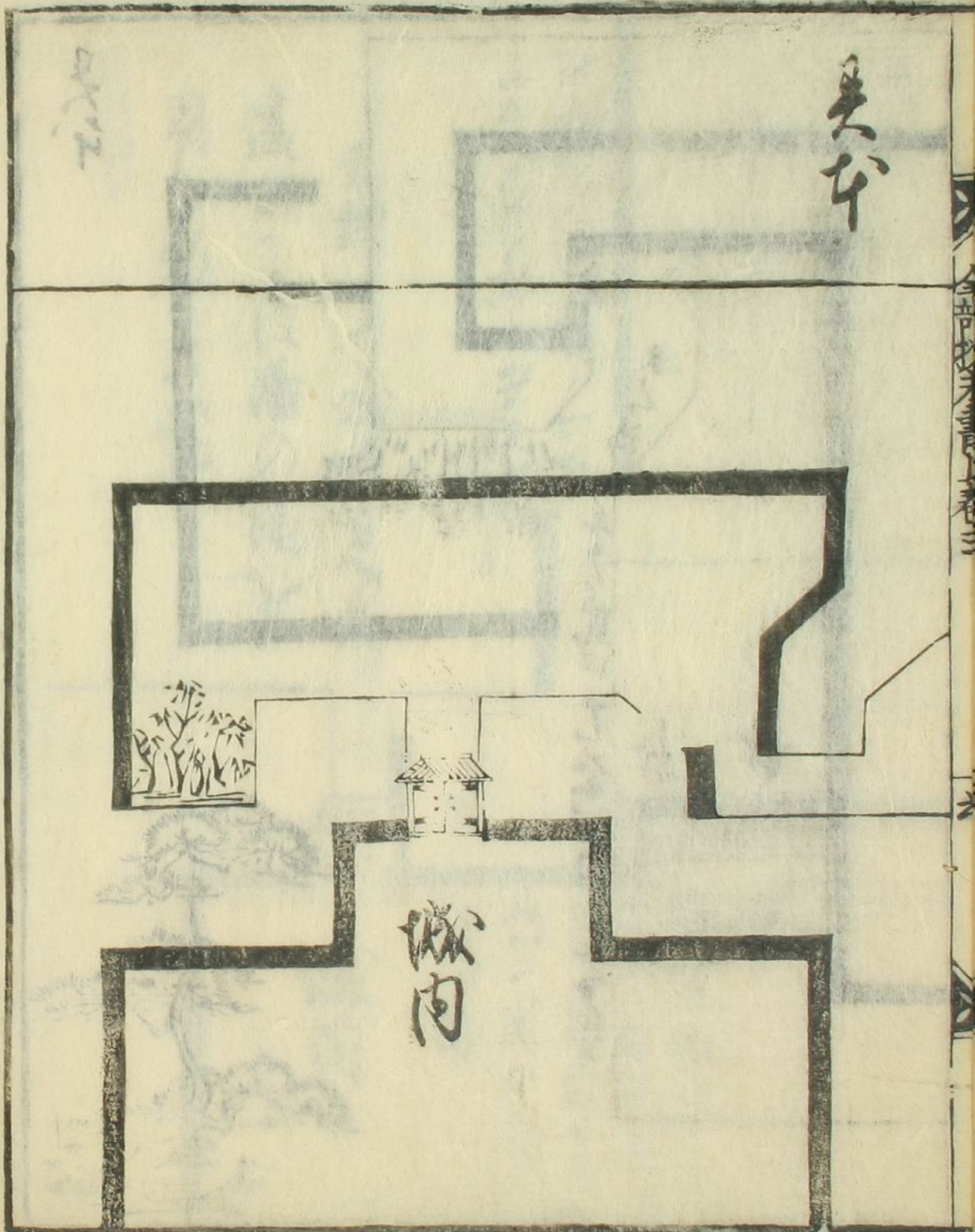
*Oil of ...*

矢倉





矢分



○五 矢さぬ切格三ヶ条のもの

一 矢横のひらりと

二 矢さぬひらりとをさす式寸横四寸

三 高さのちたふんと除く中人のひらりと

一長し切らへ一かひさけてさるるを

わけてさるるをさるれ

○六 鉄炮矢の二ヶ条のもの

一 丈人小人と除中人地よ居て乳より八

寸よりさるるへ一地よ居ておせの地より

を尺八寸より切ら八寸三角也

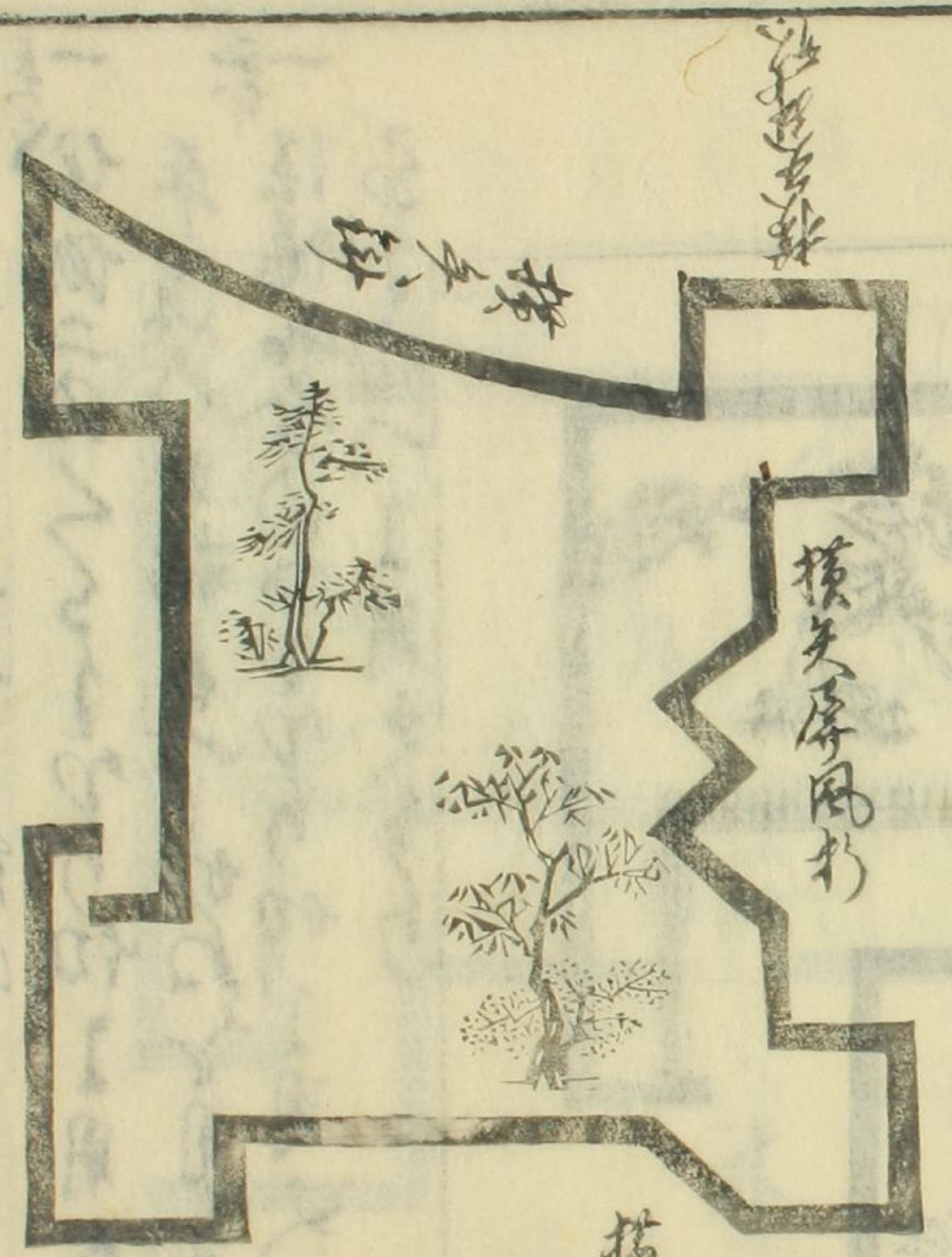
二 土一俵と用地より寸上り寸以下方より





○十丈倉窓二ヶ条のり  
 一丈倉窓の戸は事引戸よき人かき  
 撫多ふ事  
 二切戸よき人かき撫多ふ事  
 ○十一屏よく敷板櫃子の敷  
 一障目乃成り山城の切戸屏あり  
 二層の重なる  
 三障の屏と二重屏あり人かき  
 四屏のまゝ平成と六尺又寸或は六尺山城  
 と又尺又寸或は五尺四尺  
 五山城屏一二三障のり平成よきいし物あり

横筆の圖



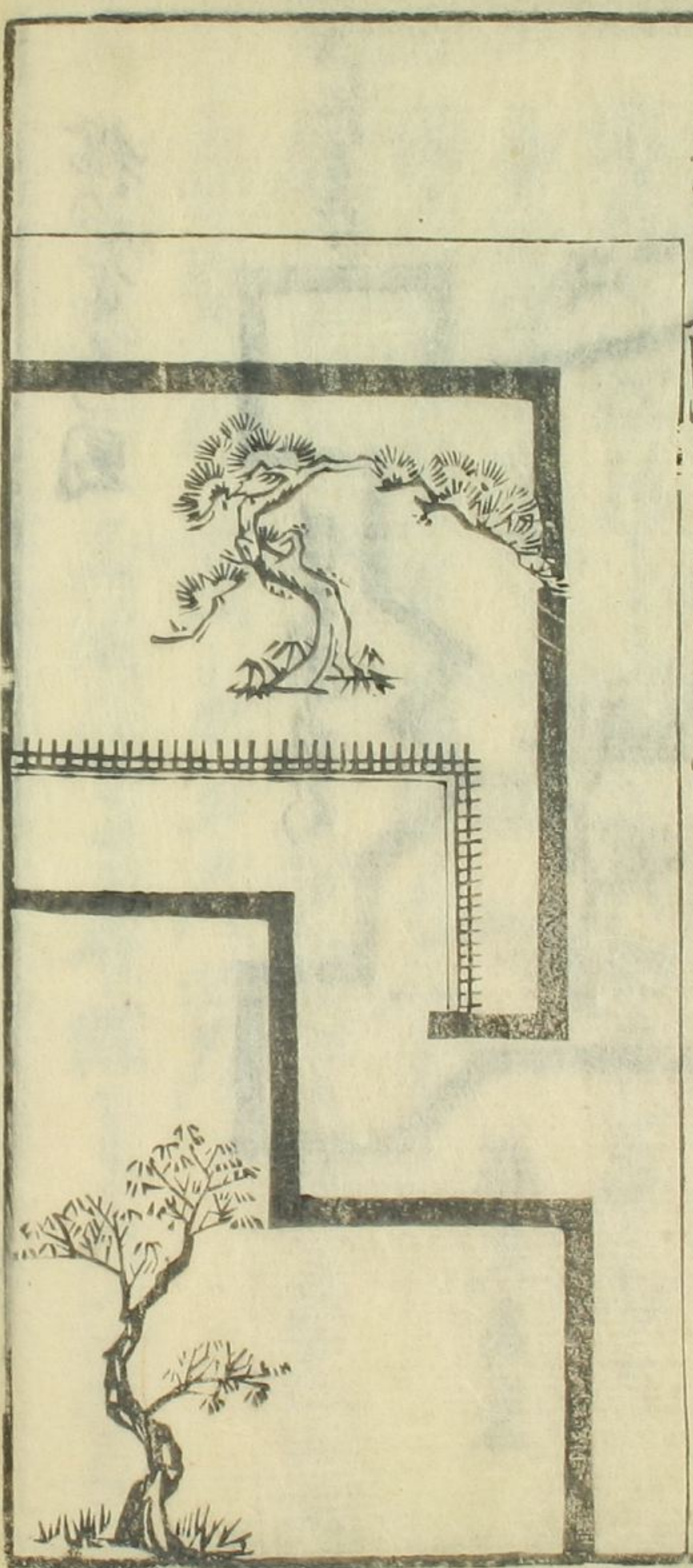
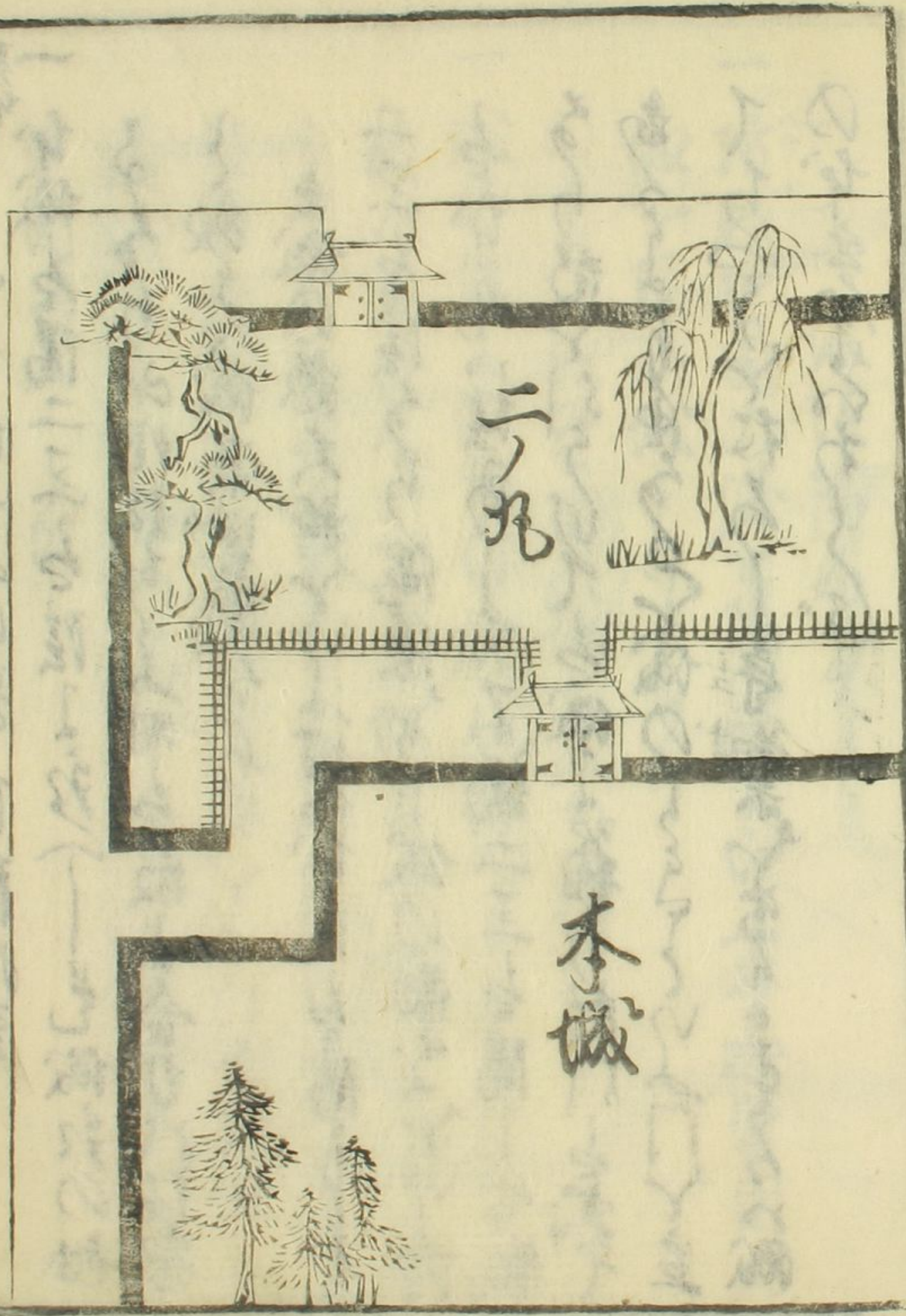
池邊石

横筆

横筆屏風

横筆角落

横筆庭落



○十二 陰陽和合之繩の事  
 一 廿二のくらしのわり切りは用ちりあり  
 平流の曲幅とつかわれをもちり  
 一 陰陽和合のちのわり切りは用又二三のく  
 らしに隔つは用えあり

陰陽和合之繩の事  
 十二  
 廿二のくらしのわり切りは用ちりあり

本城

○十二 中城二二の郭陰陽は事

一 中城を陽二二と陰一とす一是城の秘  
るゆかり此化法なり時を敵よ合ひは是  
と歟と城不堅固なり

二 城の惣大旗なり時の中丸を陽あり

二二と陰あり縄張と一城の働をとり時

と中丸の陰あり不働二二と陽一と働

あり敵より引ひてと城は籠り敵引と意

ありより中丸あり城のしるしと門と立

てちやうとたろう守禦とちよとらる城

の中意とあわらふ

○十四 城陰陽あり

一 防戦堅固の城と陽の城といふ守城堅固の

城と陰の城といふあり

○十五 城堅固は城ありか否の事

一 城の後と池堀け城を海るどきとて

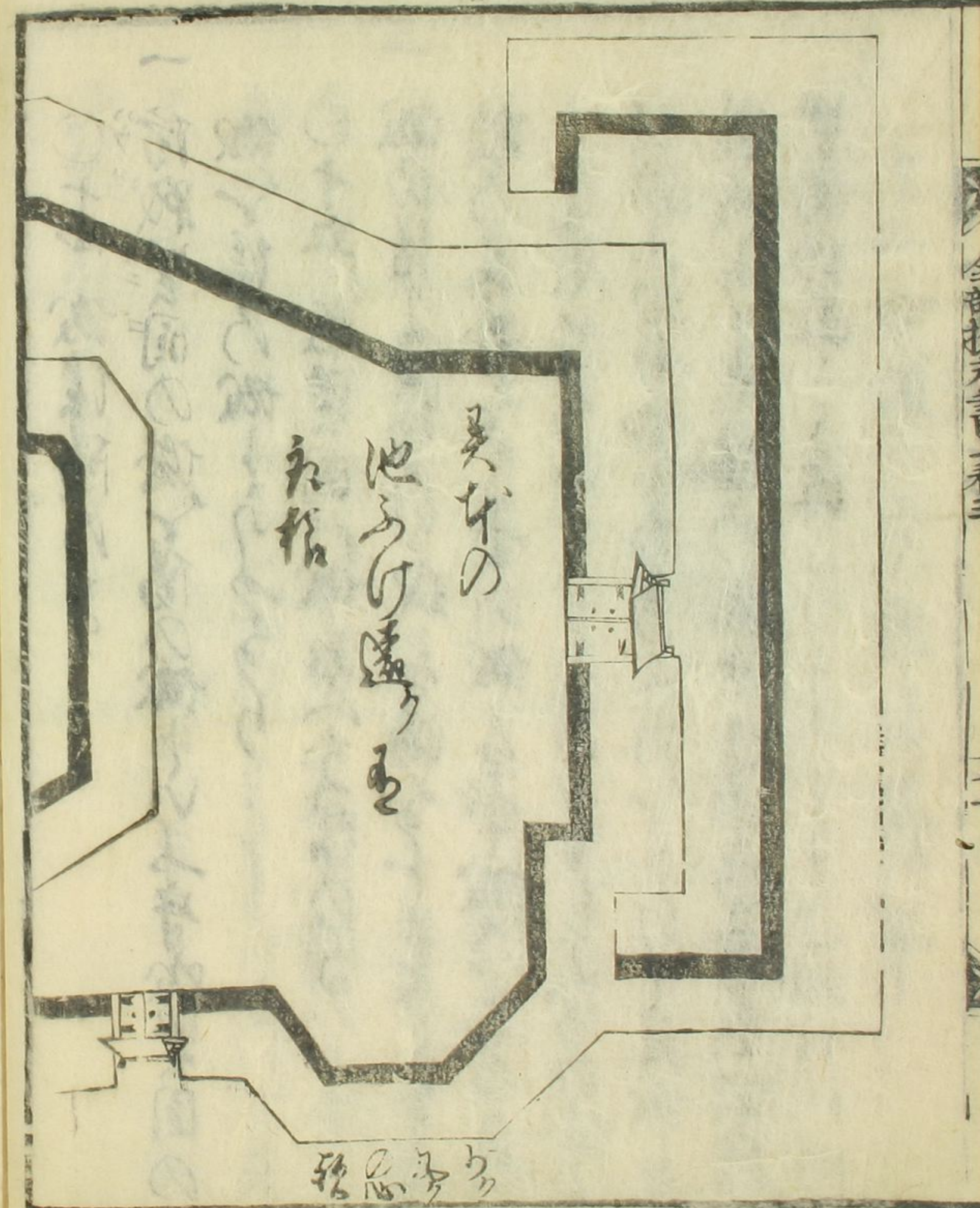
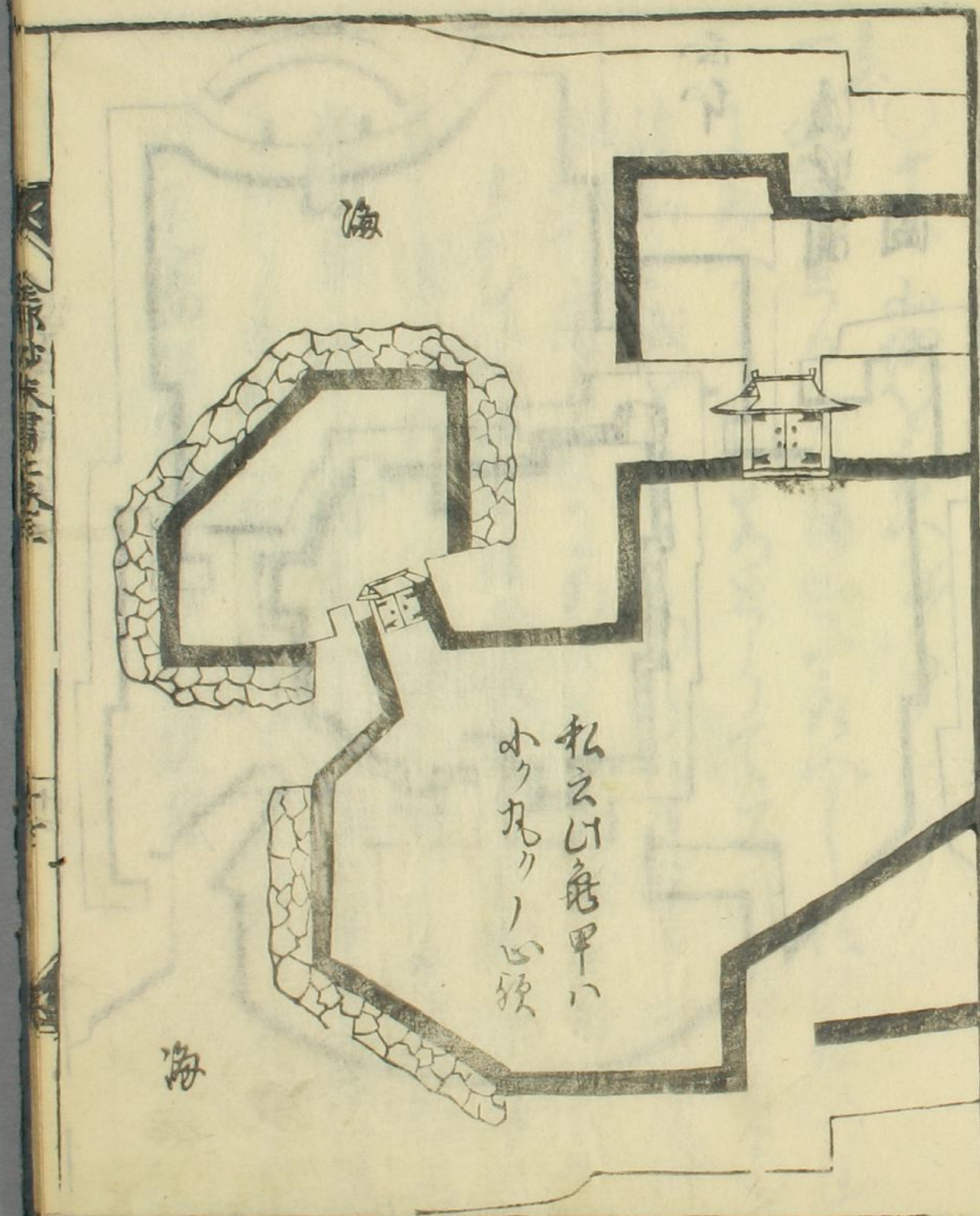
敵の馬あらしむるの城を中城なりありや

うよありとくくうううとあり又あり城

は城ありやうあり又海とうけては城を

遠海ありて極り満テうひきとて城

堅固のよあり



金部抄書卷三

三



陰山

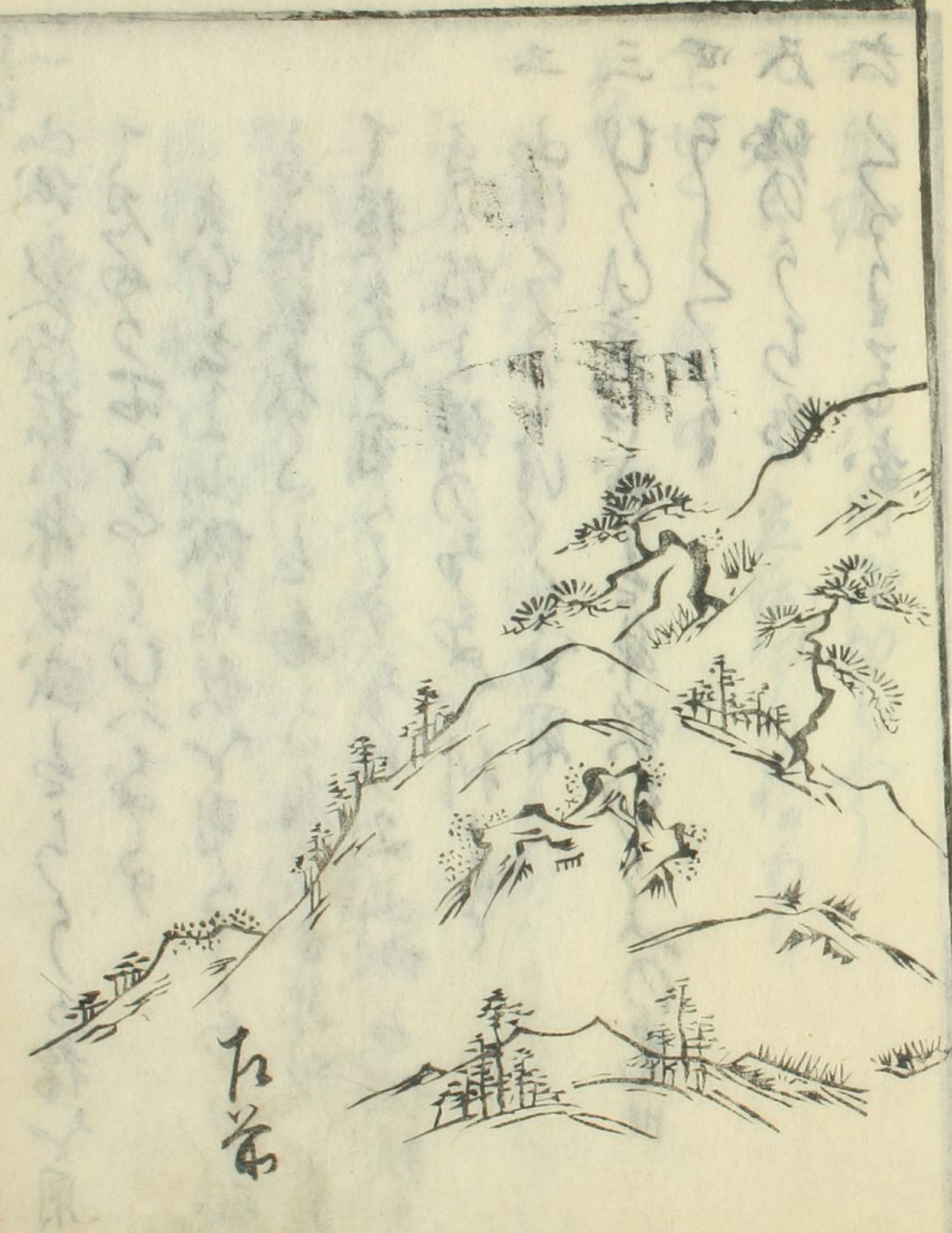


陽山



金華山

十三



右前



右前  
 右前の山右あり山の  
 右前右前山といふと  
 その松子といふと  
 つまぐの虎といふと  
 いふと  
 一山あり右前と  
 いふとあり

右前



一山城の形を楕圓の形に或は丸くしたり楕圓を用  
て丸くしたりする事

二山城の形を楕圓の形に用たり或は丸くしたり山城  
の地味大なることあるは山城の形に用たり或は丸く  
たり楕圓の形に用たり又山城の地味大なることあるは  
山城の形に用たり

二山城の形を楕圓の形に用たり

三ひらひ虎口或は楕圓の形に用たり虎口

四丸くしたり

五楕圓のうらち

六丸くしたり

七外城 八内城なり

九石弓 十立城なり

十一切つて虎口

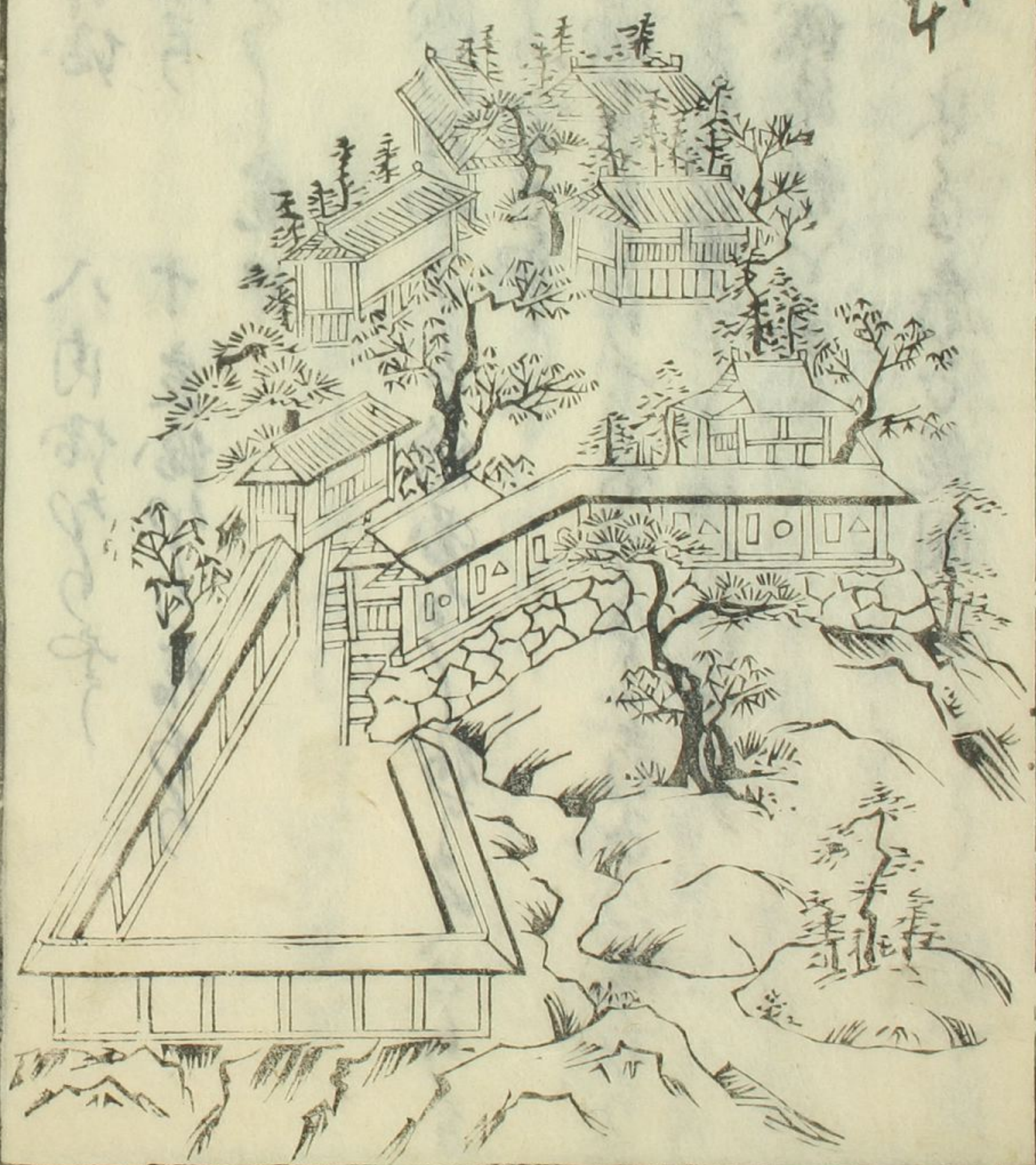
十二

一山城の形を楕圓の形に用たり或は丸くしたり楕圓を用  
たり

一山城の形を楕圓の形に用たり或は丸くしたり楕圓を用  
たり山城の形を楕圓の形に用たり或は丸くしたり楕圓を用  
たり山城の形を楕圓の形に用たり或は丸くしたり楕圓を用  
たり

水自扇子縄圖

日六



和云い湯の〜〜重くは〜〜櫓とけ〜  
金銀人カノ貴<sup>ツヒ</sup>と〜〜らら〜  
禁<sup>ツモト</sup>の水と〜〜扇子の繩と〜  
やあせ〜〜わらわら〜井と〜  
いやり〜〜柵と〜〜人教と〜  
まら〜〜海の人る法乃具る〜  
せん〜〜と〜〜小座と〜  
〜〜と〜〜物と〜〜小座の念り入〜  
〜〜と〜〜櫓と〜〜屏と〜  
〜〜わらわら〜柵と〜  
の繩と〜〜柵の氷と〜

金部抄書卷三

金部抄書卷三

十一

て川水とくみかんともなるものも是たこの後同  
の城より用りたるり勿備<sup>毛十ロ三</sup>用ちの居城し能  
繩<sup>壬午</sup>らりと用て置るもこゝあつて古昔の  
國も多しとて城と不備して城門計し城  
と名を居城と名をあらりしそを名を據し  
以て名を據しとて又名とありしとて此の時國  
中の大名の居城し中の繩とらりの城とて  
同名を據しとて此の繩の名別較多あり  
しとてとて大抵は陰陽の繩とてと名を  
くまんとしとるも名は具るなりとるなり  
ら居布かゆへ中の繩とて名別

わりも武士の家業の藝とてあつてゆき  
そりあり例に秘事は信の流しとの衆  
わりつらん 昔云ふはあつて城と屋  
敷かゆへる名別と一説とて是れは我が  
士の家業の藝とてとるなりとるなり  
そを信と今字活の町人たれとる衆と  
ひのじりのゆきとてはその心本なり居座と  
敷名をたつひ母<sup>カキ</sup>といふ事とて此の衆  
さへのもつとて又連袂と飛<sup>カキ</sup>  
と又た刀と刀と脇指の中よりと大わき指  
中よりとらりしとわきとらりしと

外周のやうにして置るゝあつ人の  
ためゝ各別のおりありあつゝあつた  
ひつゝきゝ一政ゝあつゝあつゝあつ  
屋敷と城やの各別も又あつた

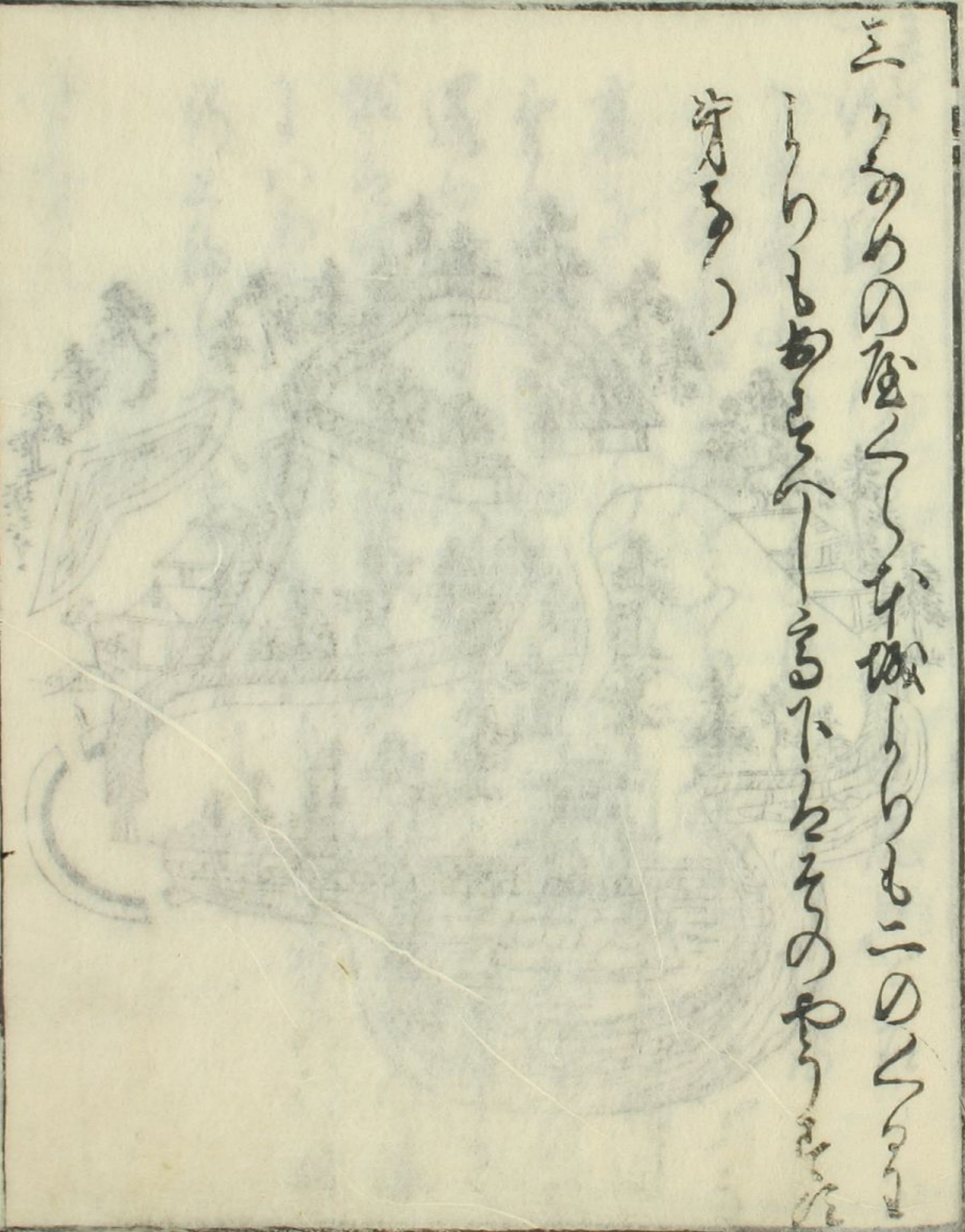
か書

山城水の白麻子乃繩の事

城の橋は付三ヶ条あり

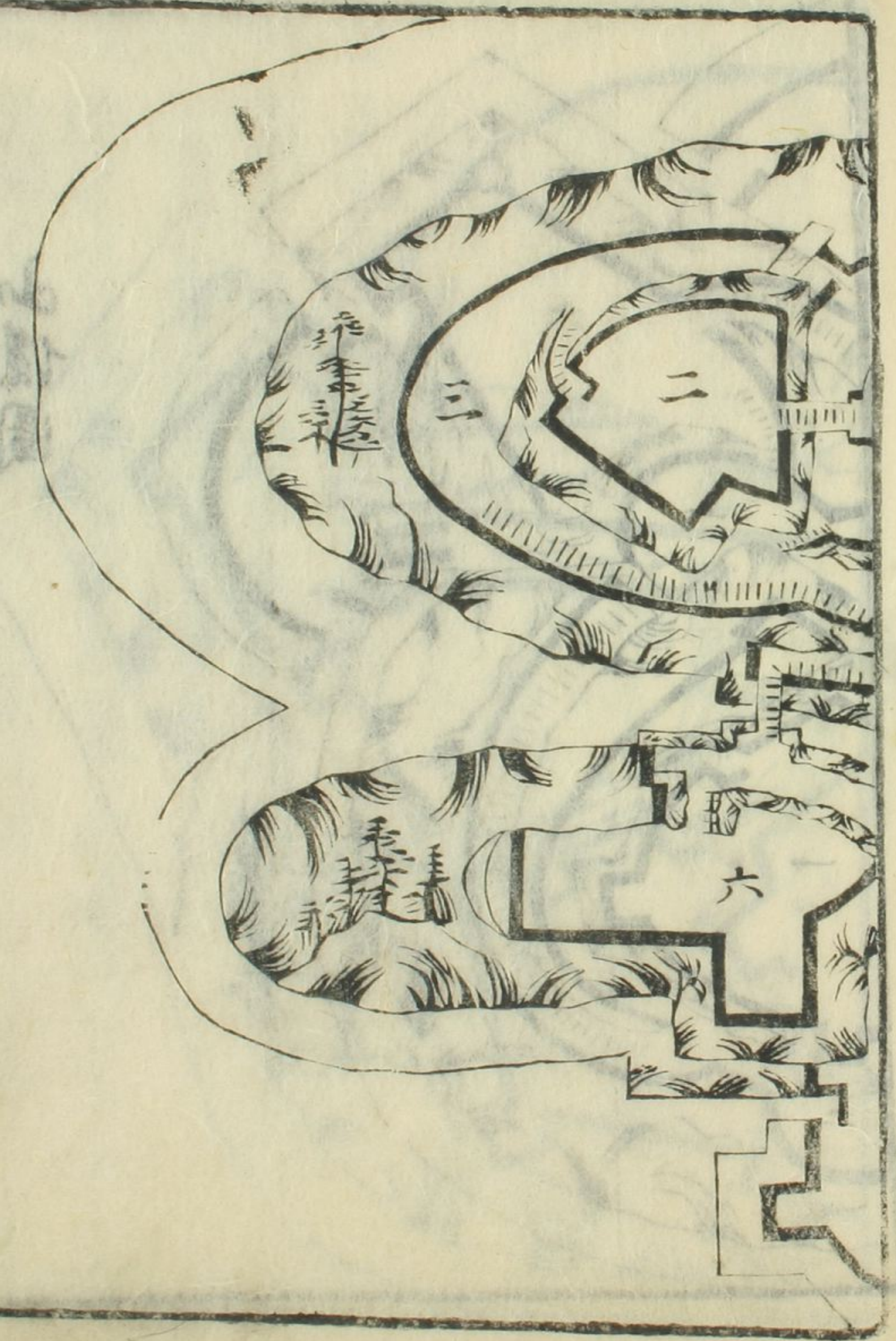
- 一 ちゝのの敷敷乃曲尺是と以相傳と
- 二 山城山は水くくゝゝ水あつゝあつ  
ふきの繩と用を是と不知りのを  
るゝと麻子の繩とあり

三 ちゝのなゝゝ城ゝも二のゝ  
しゝもあゝゝ下ゝそのわゝ  
あり

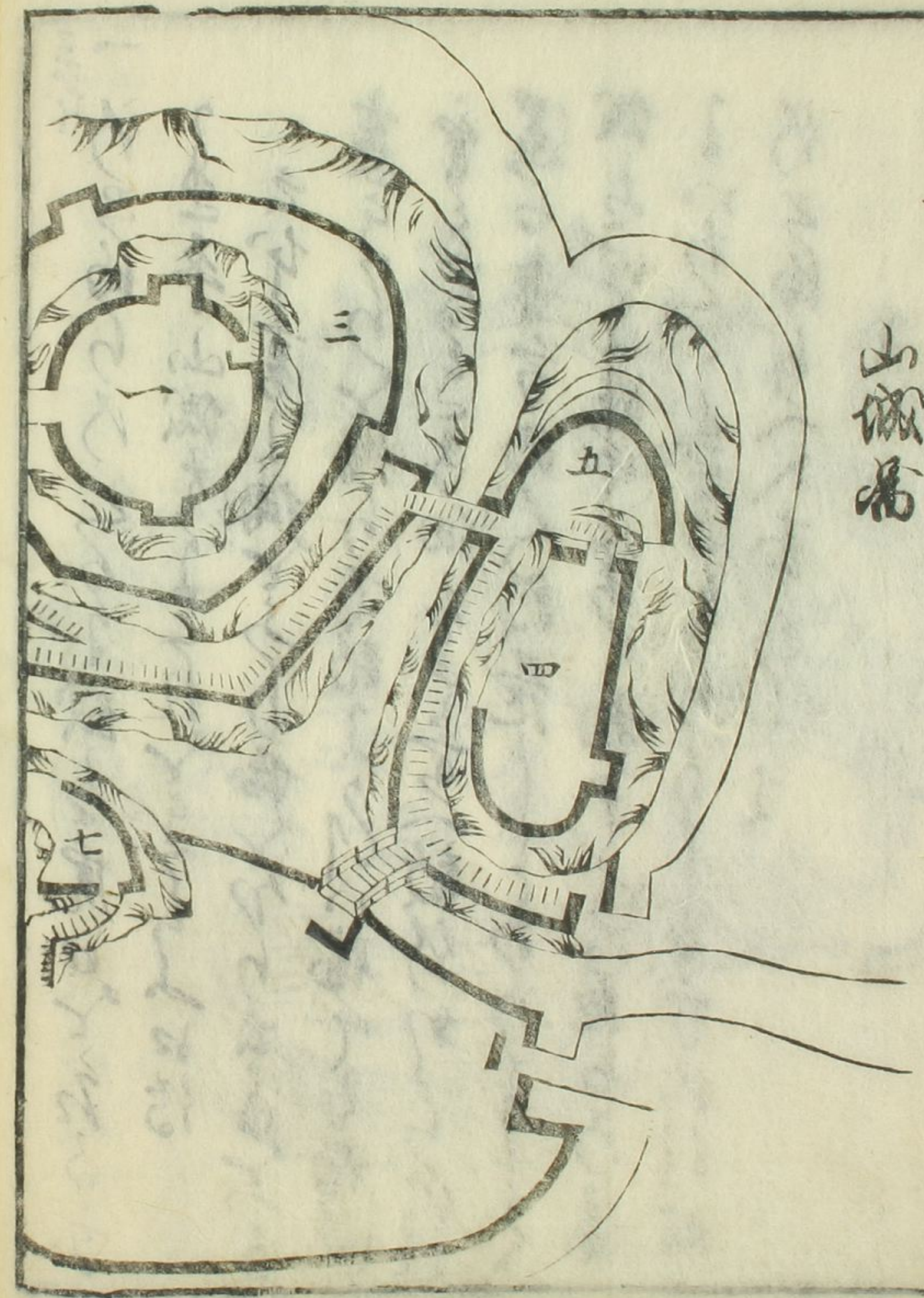




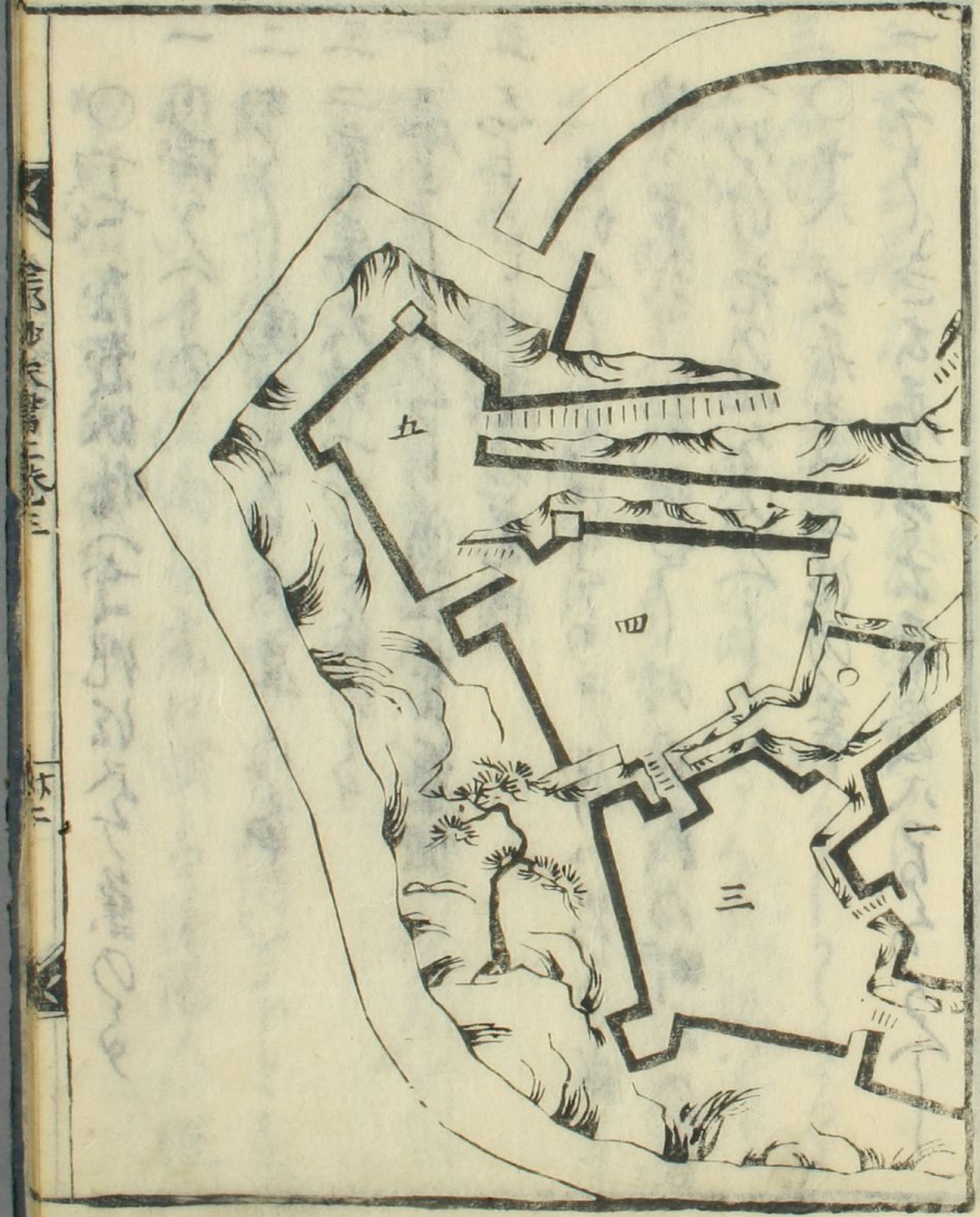
山城  
三



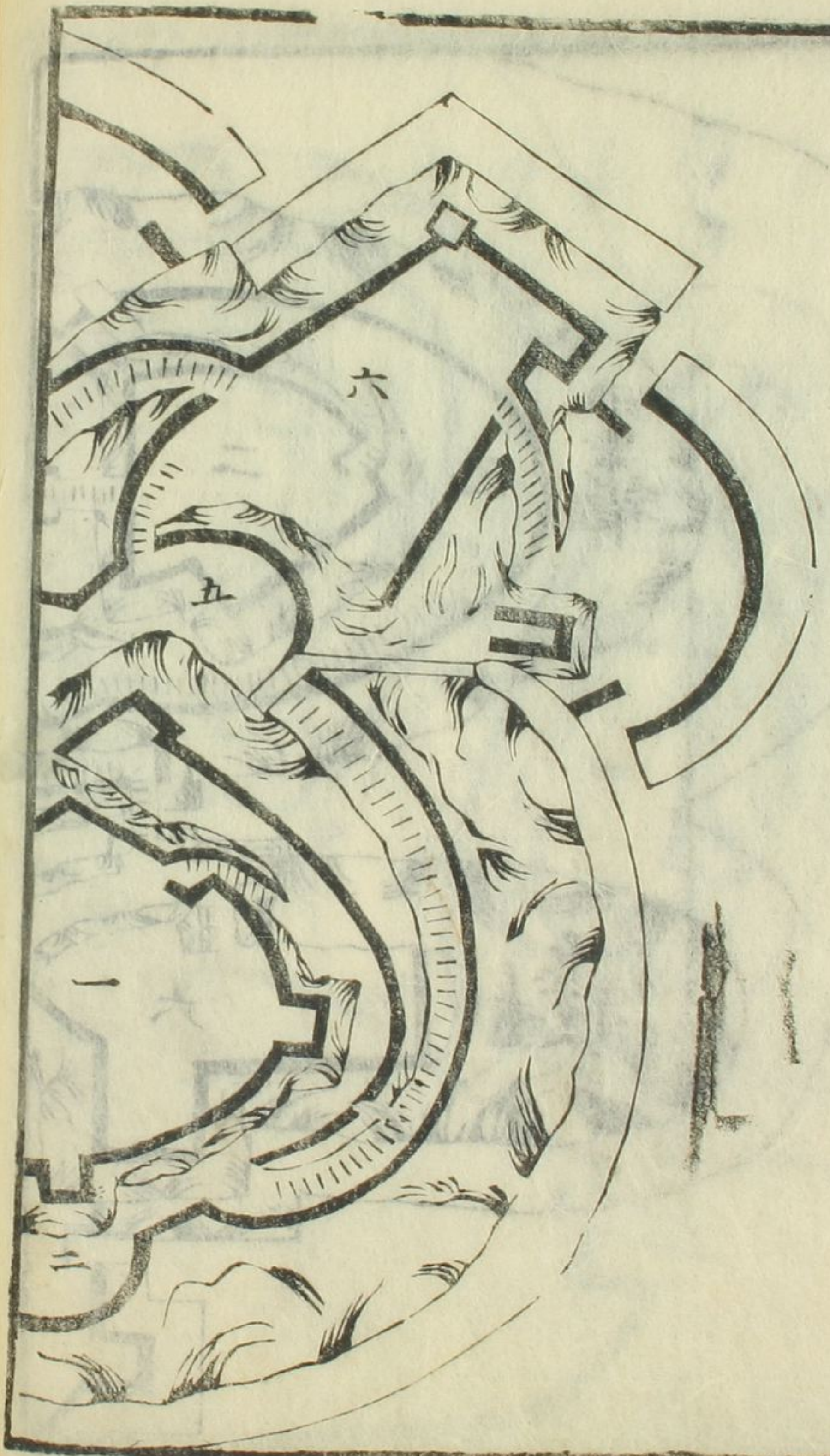
山城  
五



全書  
卷三



五  
四  
三  
二  
一



五  
四  
三  
二  
一

山  
城  
圖

全  
圖  
卷  
三

五  
一

○十七 天守 石巻城指(す)て北は只今葉のす

一内堀うすの

二わくし虎口より戸屏り事

三二重屏大竹つやう内のみ

四屏うすめり道二重築地

五志とも水邊の虎口

まかくし虎口より戸屏り中より或は  
楠り東越へ西討せし時並義力町人の  
へめけ元の心あるなり

○十八 土居安二流の事

一よりき土居と土居安八らるなり

二芝土居と土居安六らるなり

三石垣と土居の肉もくくしうす  
右のりもさうし二つらの時りるなり但て  
しり時よりいそそ物よりさへし土居  
あしくわらぬなり

○十九 土居安二流の事

一 夫中 堀は土居さ拾間上 拾又間と中二拾間と下  
とさうのなり

或云十又間上 土居中 土又間と下とを  
ふしりし但し依と虎口或と陸陽の繩  
かり切のふり儀なり

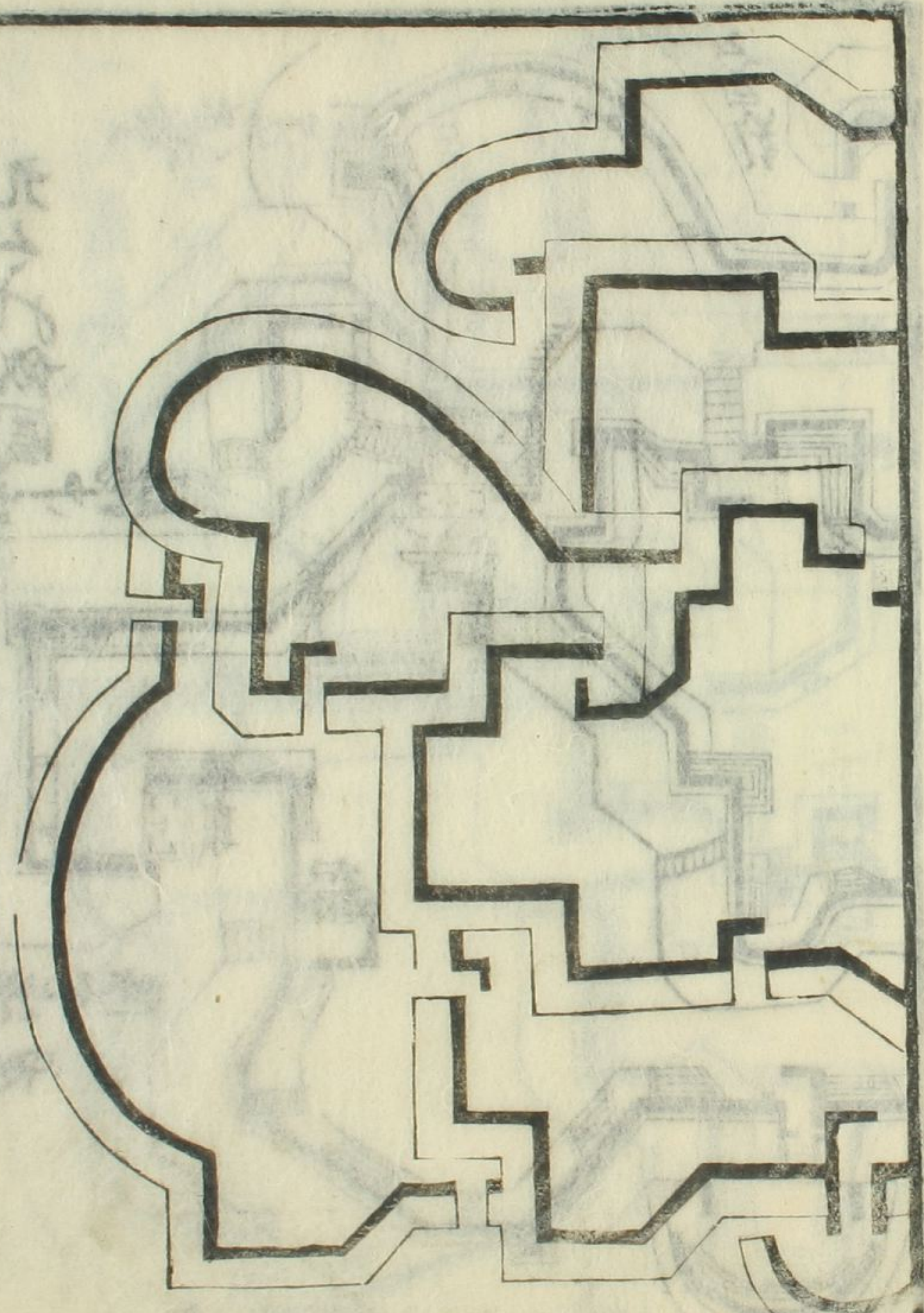
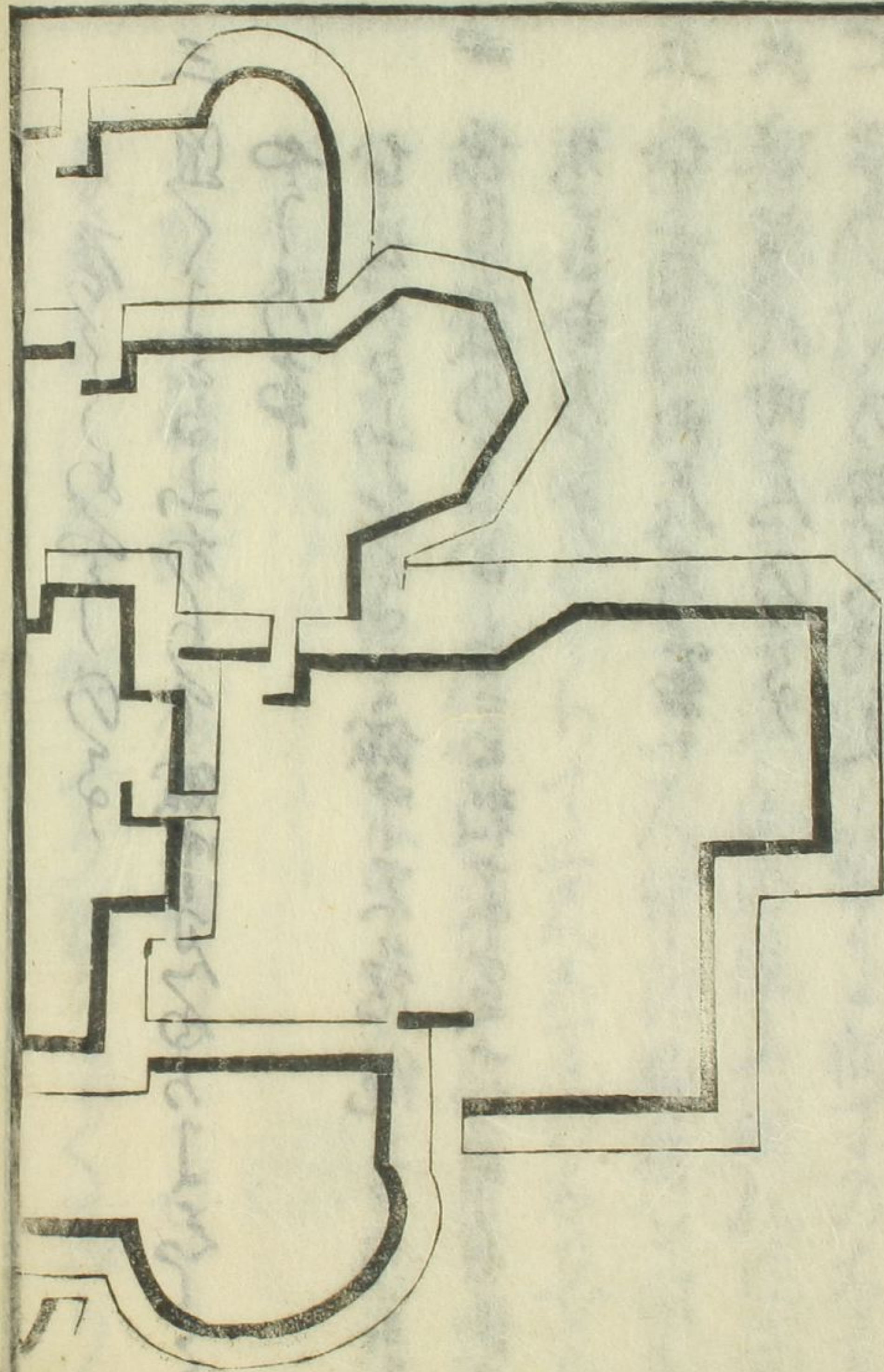






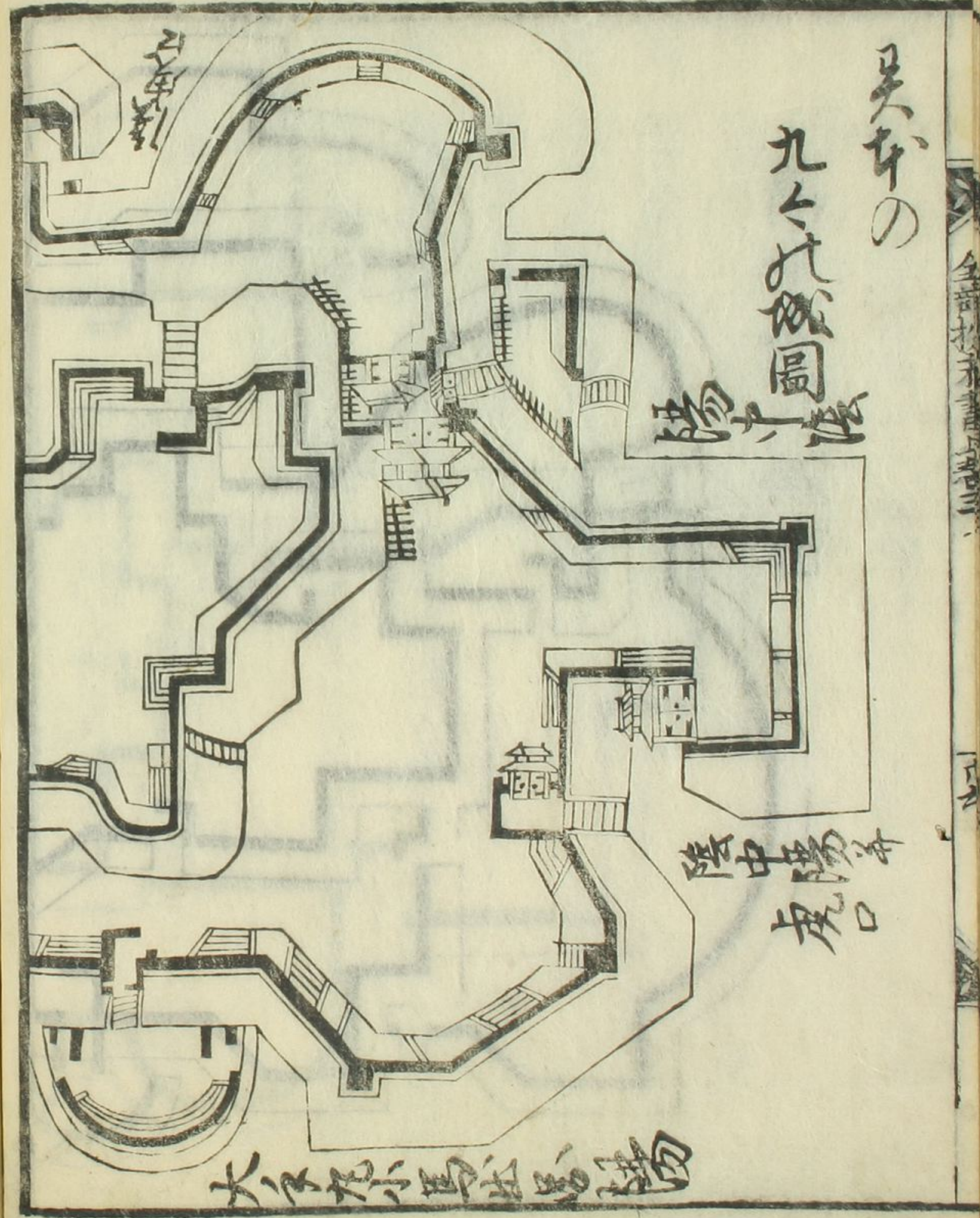
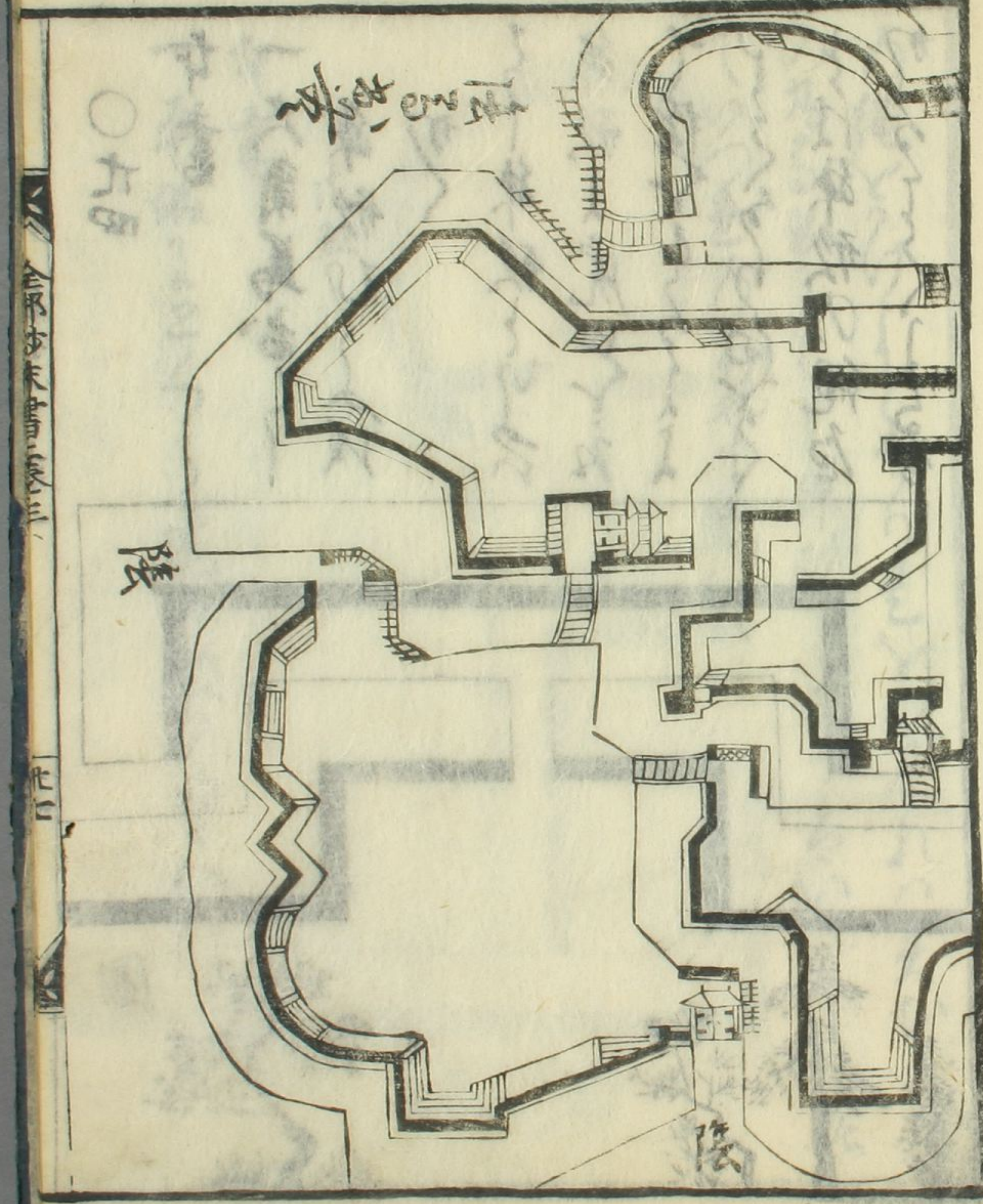
吳中

陽中陰北城圖



陽中

陰北



吳中

九々城圖

陸

陸中陽

虎口

大子丸

〇五

陸

陸

〇九四

本書

一大角馬おろし

練歌ひひら

切く

ろし練歌といひ

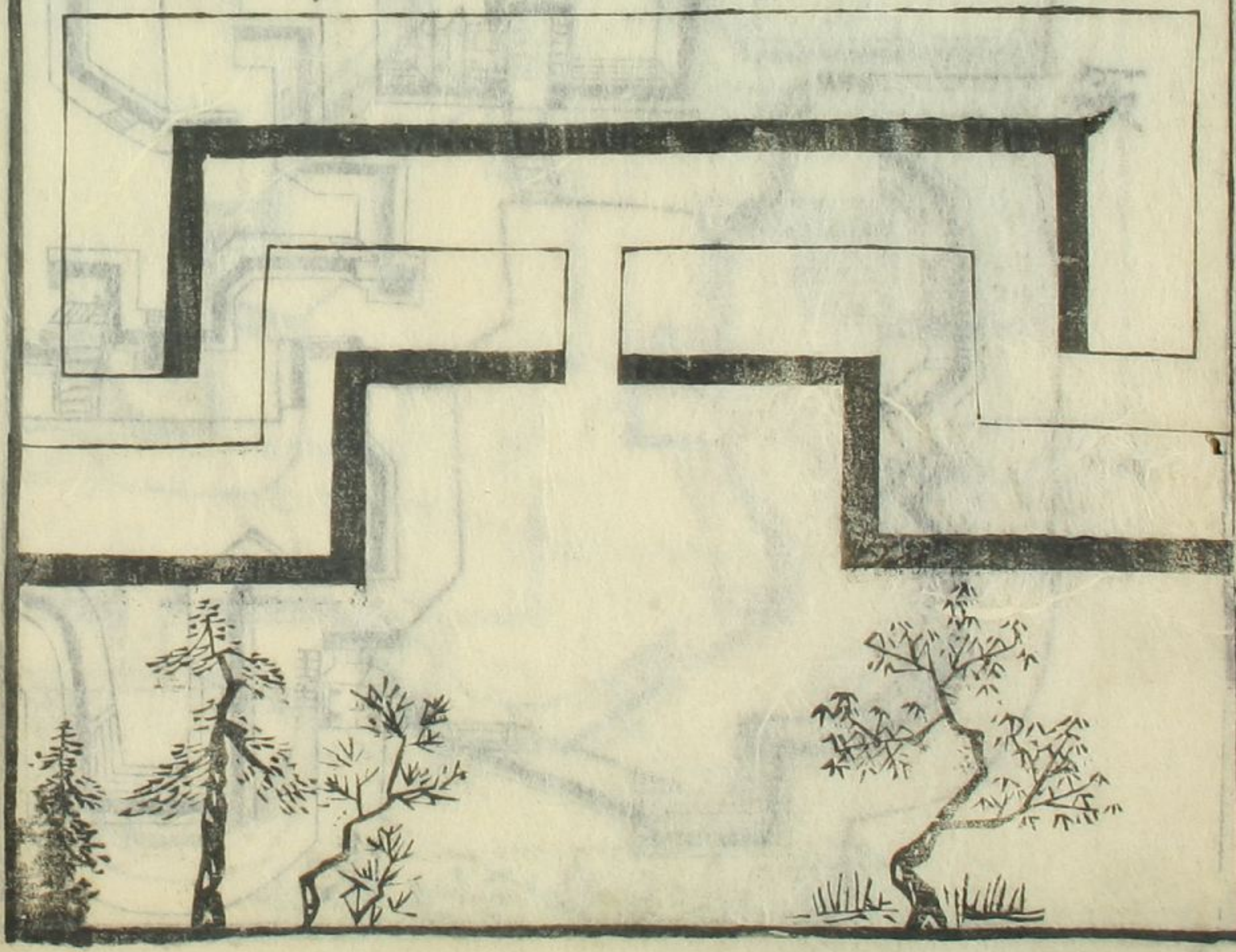
練歌よ虎也といひ

て格とていひ

ろしからいひ

といひ練歌の繩を

切るといひ



の繩といひろしからいひ是と改んこれの真  
の丸もあつてろし練歌といわるといふん  
ていつていふあわすもろし

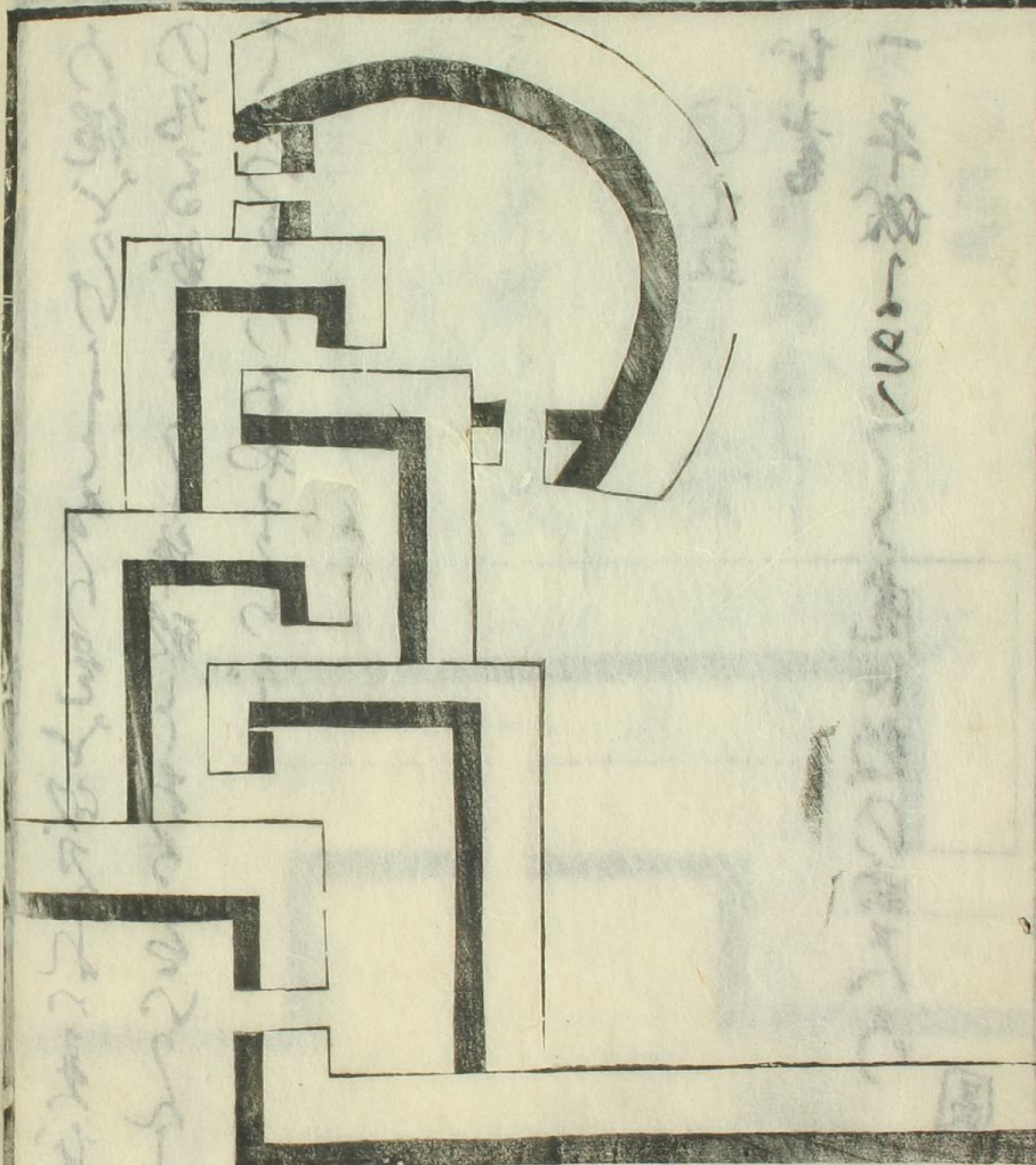
〇九五

本書

一平歌といひろし虎は教の曲尺なり

圖

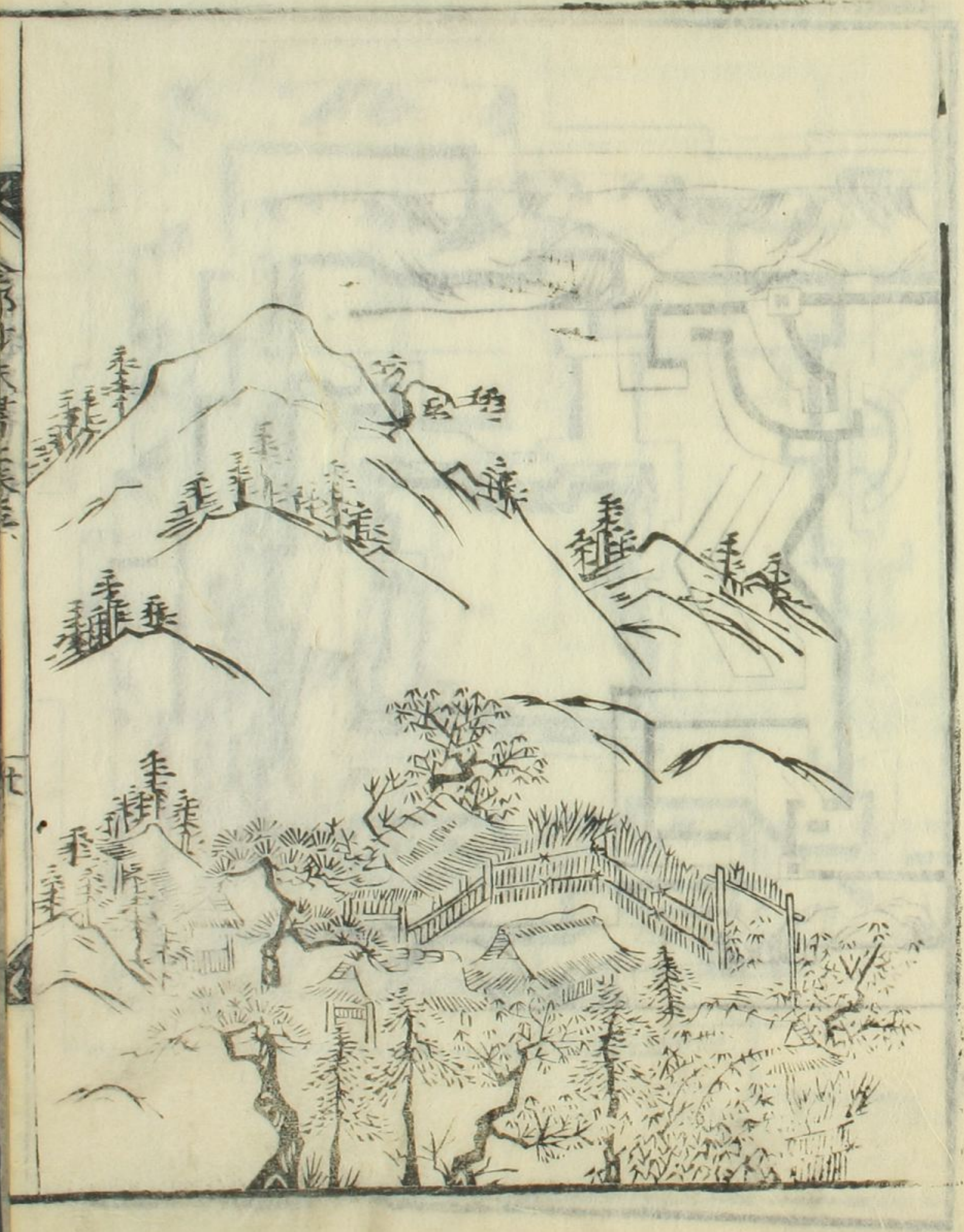
一 竹原一ノ山



城本

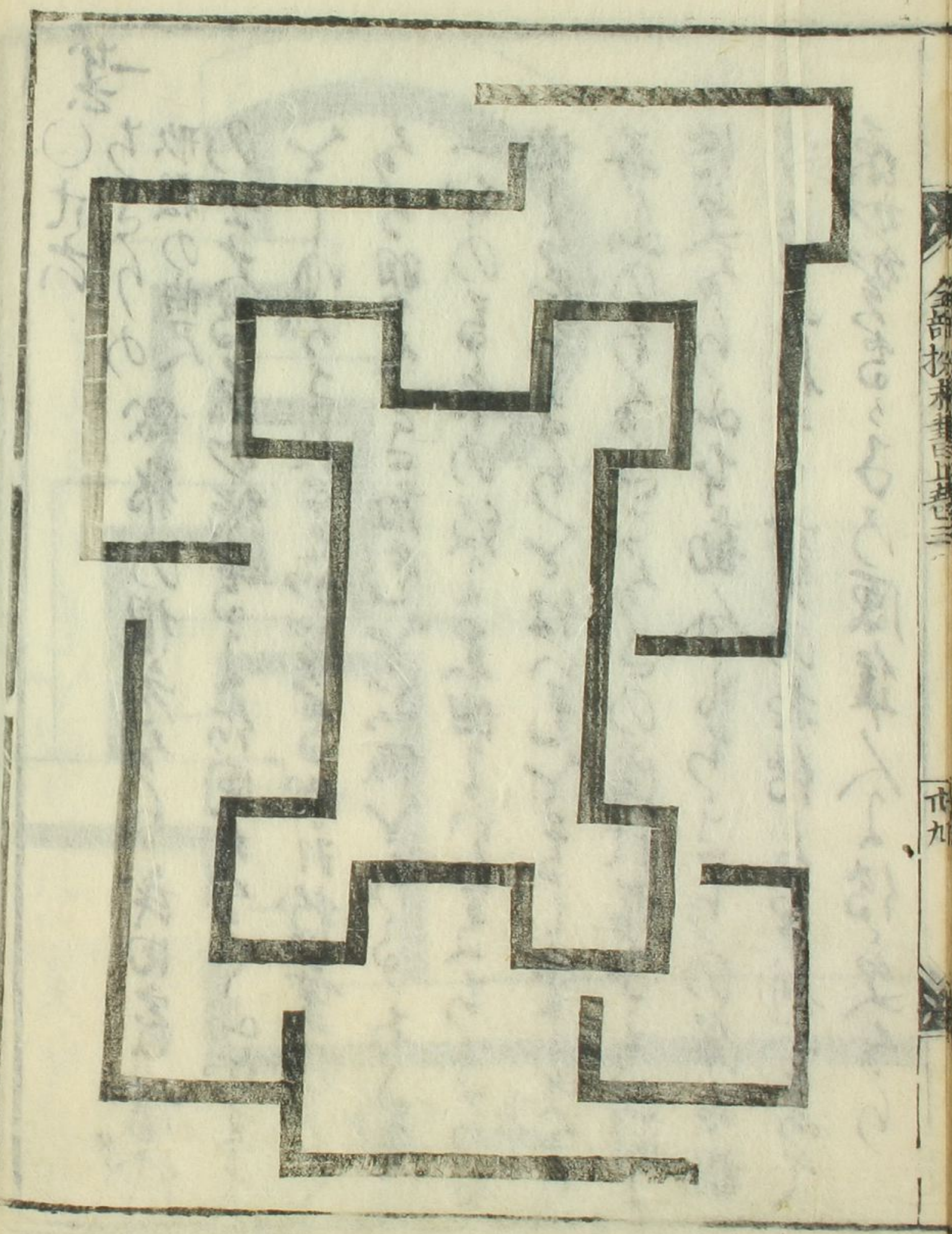
葉〇廿六

ちきりりの 城郭の根えりり 茂田家 藩代  
 取敷の曲尺 の士大將系か福重より何国を多く山伏を  
 としゆりされをか加らる城に枝葉のどく  
 ろる明らるるか加をとる城に形もあつて  
 二女のる中級の級よ思地よい白をちりり  
 地よ思ちりりとはい思とる重しりり  
 并山のあつてこの道に指子もい対し  
 傳えりり山が勅命もちりりの名を想  
 ずりりこれをも實のお傳を甲列へあて  
 系か加らるる子り原集人よ傳えりり



山崎の風景

七

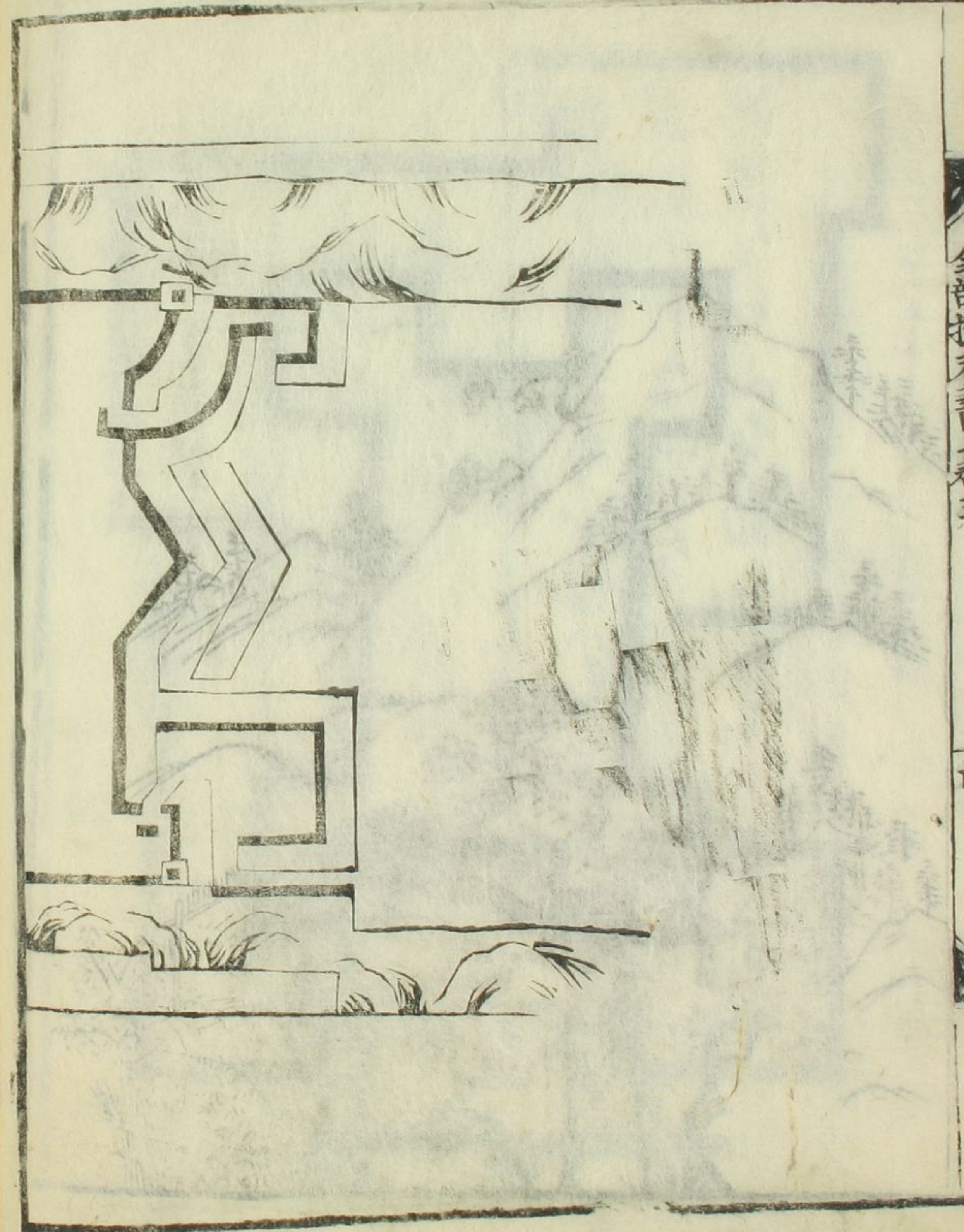
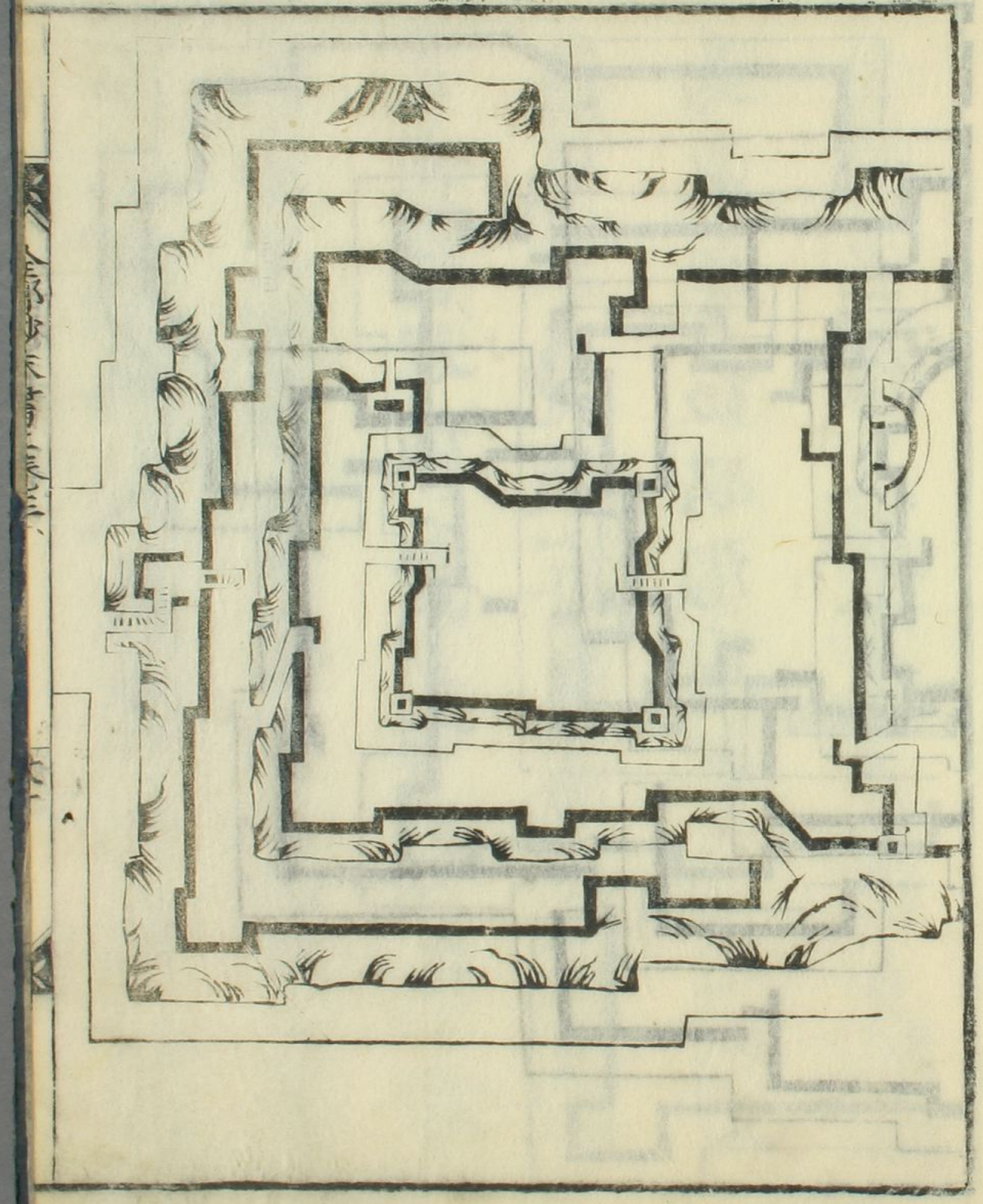


山崎の風景

山崎の風景

山崎の風景

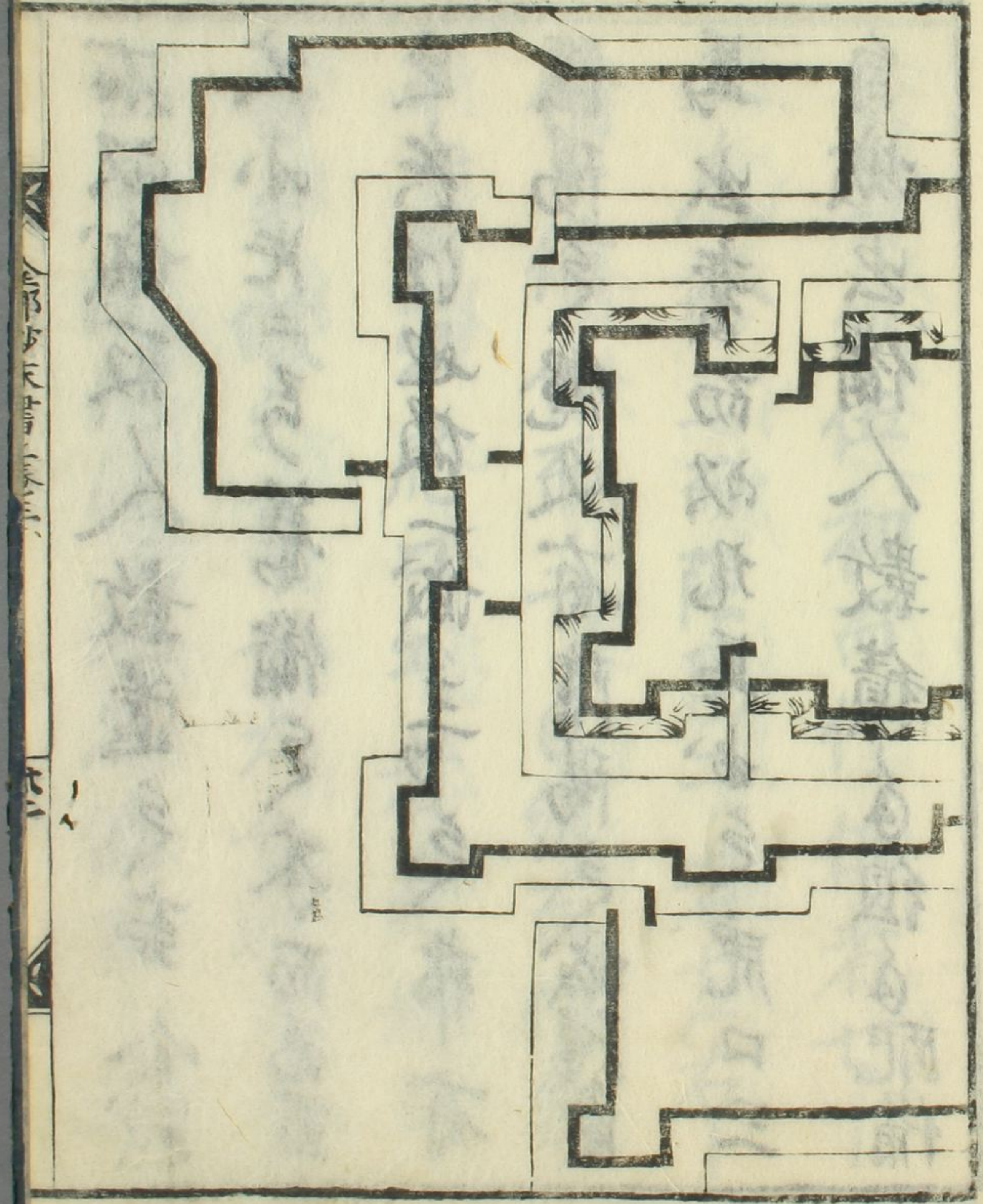
九



金部抄書上卷三

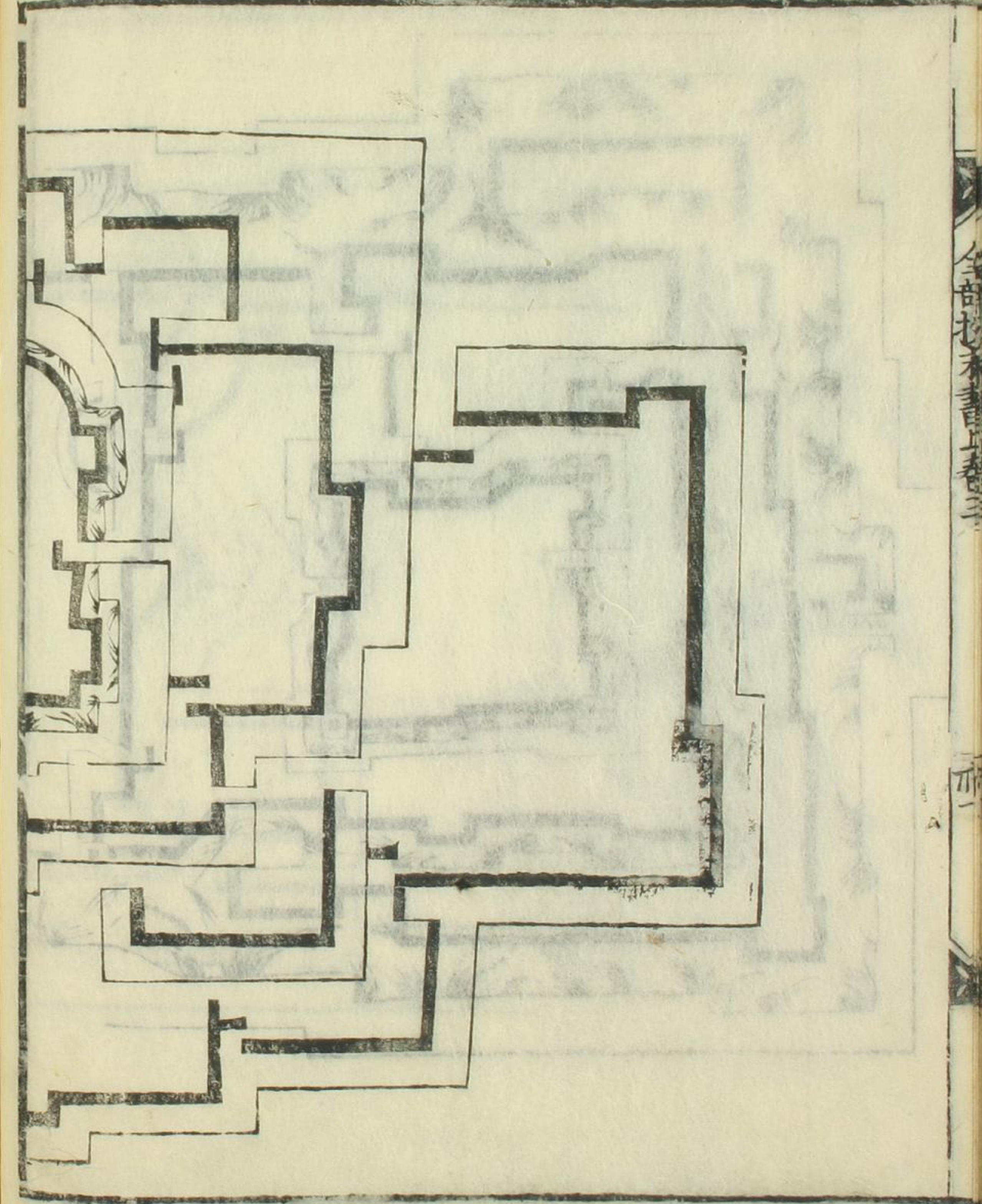
三





全吉抄本書上卷三

一



全吉抄本書上卷三

一

右以城取人數遺之事合戰  
大小比二弓箭備之本而為軍  
之兵法也故一城三ツ之郭有  
陰陽之繩又有陰陽之城斜角  
馬出變而以凡馬出之虎口三  
自城出備人數積之組之配備

立者從伍初而什伍者七十  
五人於三而陰陽二ツ者左右下  
備一備合而三ツ之組而備幾  
千<sub>七</sub>馬出虎口出者是壞目  
畜手城之事也大合戰之手  
組手配此法<sub>七</sub>此每漏事又

對陣者陣城塙目之士大將者  
城之外工取也城敵城工付城  
此等皆山本勘久晴幸武田  
家工善推廣委細傳テ馬場  
長濃守信房信房幕下之  
士早川弥三右幸豐傳之  
又隨心幸豐而小幡勘吉傳  
宗憲傳受之矣

信玄全集末書上卷之三終



